

会長のページ 宮崎県の医療事情	稲倉 正孝	3
日州医談 消防法改正に伴う傷病者の 搬送及び受け入れの実施基準について	古賀 和美	4
随 筆 50周年・50年ぶりのことども	友成 久雄	6
寄 稿 「医療用漢方製剤の薬価削除反対運動」協力のお礼	川越 宏文	9
エコー・リレー(424)	玉置 昇, 森 継則	13
メディアの目 政府与党の医療改革はいずこ?	千田 伸二	16
宮崎大学医学部だより(機能制御学講座統合生理学分野)	高宮 考悟	18
専門分科医会だより(放射線科医会)	田村 正三	19
診療メモ 「プライバシー」をめぐる医療現場の混乱 -「倫理コンサルテーション」の視点から-	板井孝壱郎	52
叙勲・祝賀		10
表彰・祝賀		11
宮崎県感染症発生動向		14
あなたできますか?(平成2年度医師国家試験問題より)		17
宮崎県医師会親善ゴルフ大会		20
各種委員会(健康教育委員会, 医学会誌編集委員会, 第2回公益法人化検討委員会)		22
地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議		25
日医 FAX ニュースから		26
薬事情報センターだより(283) 新薬紹介(その42)		28
理事会日誌		30
県医の動き		34
追悼のことば		35
会員の異動・変更報告		37
読者の広場		38
ドクターバンク情報		39
行 事 予 定		43
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		45
平成22年総目次		56
ベストセラー		67
あ と が き		68
~~~~~		
お知らせ 宮崎県ドクターズテニス大会(都城)開催のお知らせ .....		29
年末・年始の休館について .....		33
平成22年度日医認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い .....		51
郡市医師会への送付文書 .....		54

## 医師の心得

- 1 . 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
- 2 . 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
- 3 . 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
- 4 . 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
- 5 . 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

社団法人 宮崎県医師会

(平成 14年 3月 12日制定)

〔表紙作品 油絵〕

### つれづれに

6月に、双子の孫を生後1週間で亡くしました。  
名のみ残して、魂は煙とともに風塵と化し、今玄界灘を近く  
くのぞむ前原の古刹に眠っています。  
エアポケットにはまり込んだような、つれづれなる心情を  
絵に託してみました。

露の世は露の世ながらさりながら(一茶)

延岡市 なが長 ぬま沼 こうざぶろう弘三郎

## 会長のページ

## 宮崎県の医療事情

いな くら まさ たか  
稲 倉 正 孝

平成 22年度医師臨床研修マッチング結果が 10月 28日に発表された。宮崎県は募集定員 75名に対して 30名と、全国最下位の成績であった。この結果については、正直なところ腰が抜けてしまった。医師不足は全国的な問題であるが、本県では特に深刻である。30歳未満、30~ 39歳の若い医師が各々 49%、19%と大幅に減少しており、10~ 20年後の宮崎県の医療に壊滅的な打撃を与えると予想される。早急な対策が求められている。

今年になって、ほぼ同時期に宮崎県の医療問題について 2冊の著書が出版された。前宮崎大学附属病院長・高崎眞弓名誉教授著「稼ぐ大学病院・教育研究と経営とのはざままで」(直興交易医書出版部発行)と、清山知憲著「なぜ宮崎に医師

はいないのか - 誰も語らない医師不足の本当の理由 -」(宮日文化情報センター発行)である。

高崎名誉教授は麻酔科専攻で昭和 63年より平成 19年まで麻酔科教室を主宰された後、附属病院長を平成 22年 3月まで務められた大先生である。清山医師は宮崎西高出身で、平成 18年に東京大学医学部を卒業、沖縄県立中部病院にて初期研修を終了、平成 20年に米国ニューヨークのベス・イスラエル・メディカルセンターで内科研修中にインターネットで宮崎の地域医療の過酷さを知り、研修半ばにして、期するところがあって宮崎に帰郷した 29歳の新進気鋭の青年医師である。

経歴、専門及び年齢の大きく異なる二人の医師が、本音で簡潔に日本の医療、宮崎の医療が抱えている問題点を鋭く指摘している。奇しくもお二人の考えには共通するものが多い。医療従事者、政治家、行政に携わる公務員及び医療に関心のある方にはぜひ一読されることをお勧めする。

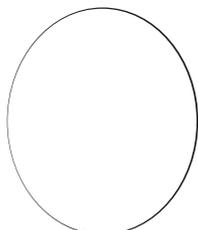
救急医療、小児医療及び産科医療を中心に地域医療は崩壊しつつある。その主な原因は医師不足にあると言われている。「名義貸し事件」に見られるように、昔から医師の絶対数は足りなかった。医療費亡国論に基づく長年の医療費抑制策のもと、医学部定員の削減が行われてきた。その結果、人口 1,000人当たりの医師数は、OECD は平均 2.9人に対し、日本は 2.1人となっている。日医総研の調査(平成 22年)では最低必要医師数は 17,000人( 1. 倍)、厚生労働省(平成 22年 9月)の調査では 24,033人( 1.14 倍)と報告されている。

平成 16年度に導入された新医師臨床研修制度は都会の研修病院への研修医の集中を促し、大学病院及び地方の研修病院の研修医が激減した。地域間偏在のみならず診療科間偏在を助長した。

宮崎の医療を守るためには、若い医師を集めることが喫緊の課題である。そのためには、臨床研修の充実を図り、若い医師にとって魅力的なものにする必要がある。大学病院、県立病院及び臨床研修病院の連携を密にし、優れた指導医を多数集めて、若い研修医が競って宮崎に集まるようにするには、県行政の積極的な関与が必要である。

また、研修医マッチングでは、臨床研修医 7,998人に対して募集定員は 10,692人で、2,694人の空きがみられた。研修医の大都市への集中をさけるためには、募集定員と研修医の数をほぼ同数にして、募集定員の数を人口比で配分するなどの工夫をして、地域医療の崩壊を食い止める必要があると考える。(平成 22年 12月 2日)

## 日州医談



## 消防法改正に伴う傷病者の 搬送及び受け入れの実施基準について

常任理事 古賀和美

「消防法の一部を改正する法律」が平成 2年 5月 1日に公布され、同年 10月 30日に施行されました。これに伴い、各都道府県に、消防機関や医療機関等が参画する協議会を設置するとともに、傷病者の搬送及び受け入れの実施に関するルール(実施基準)を策定し、公表することが義務づけられました。法改正の背景に平成 18年及び 19年に奈良県で、平成 20年に東京都で発生した妊婦の救急搬送事案など、救急搬送において受け入れ医療機関の選定が困難な事案が全国各地で発生し、社会問題化したことが考えられます。今回の法改正は、地域における現状の医療資源を前提に、消防機関と医療機関の連携体制を強化し、受け入れ医療機関の選定困難事案の発生をなくすことが主たる目標です。

宮崎県では、平成 2年 5月に協議会を設置し、4回の議論を経て概略の素案がまとめられました。現在、各医療機関の理解承認を得ている段階であり、承認が得られ次第、県のホームページに公表される予定です。

今回、協議会でまとめられた素案は以下に示すように 8つの骨子からなっています。

- ・ 実施基準の概要
  - ・ 医療機関の分類基準(消防法第 35条の 5 第 2 項第 1 号)
  - ・ 医療機関のリスト(同第 2 号)
  - ・ 観察基準(同第 3 号)
- 消防機関が傷病者の状況を確認するための基準

- ・ 選定基準(同第 4 号)  
消防機関が傷病者の搬送を行おうとする医療機関を選定するための基準
- ・ 伝達基準(同第 5 号)  
消防機関が傷病者の搬送を行おうとする医療機関に対し傷病者の状況を伝達するための基準
- ・ 受け入れ医療機関確保基準(同第 6 号)  
傷病者の受け入れに関する消防機関と医療機関との間の合意を形成するための基準とその他傷病者の受け入れを行う医療機関の確保に資する事項
- ・ その他基準(同第 7 号)

以上 8つの骨子のうち、直接、医療機関に係る . . . について説明を追加したいと思います。

の「医療機関の分類基準」にある基準とは当該医療機関のベッド数や、医療器械などの設備充実度、専門医の有無などを指すものではありません。分類基準というより分類項目としたほうが理解しやすいと思います。宮崎県では医療現場の実情を考慮し、以下のように 10項目について医療機関を分類しました。バイタルサインが重篤 脳疾患の疑い 心疾患の疑い 緊急度が高い外傷 緊急度が高い熱傷 緊急度が高い中毒 重症度・緊急度が高い小児 重症度・緊急度が高い妊産婦 消化管出血 精神疾患です。 ~ を緊急性, ~ を専門性, ~ を特殊性という立場から分類しました。

の医療機関のリストは平成 20年の搬送・受け入れの実績をもとに各消防局あるいは消防本部ごとに医療機関をリストアップするものです。

の受け入れ医療機関確保基準は でリストアップされた医療機関で受け入れ困難な場合に次に搬送される医療機関のリストです。

宮崎県の消防機関は 2 か所の消防局と 7 か所の消防本部、合計 9 か所の消防機関からなっていますが、それぞれの消防機関ごとに および のリストが作成されています。ただ、リストアップし、公表するまえにそれぞれの医療機関の了承が必要であり、現在その作業中であります。従って、現在の段階では本誌にリストを掲載することはできません。

以上、消防法改正に伴う傷病者の搬送受け入れに関する実施基準について概略を示しましたが、以下の点に留意していただきたいと思ひます。

1. この実施基準はあくまで傷病者の搬送受け入れを円滑に行うためのルールであり、傷病者の希望する医療機関やかかりつけ医への搬送、つまりリストに記載されていない医療機関への搬送を否定するものではありません。
2. リストの公表は宮崎県のホームページで公表されます。
3. リストアップされた医療機関は毎年見直しがあり、新規参入も退出も可能です。
4. リストアップされ公表されていることを理

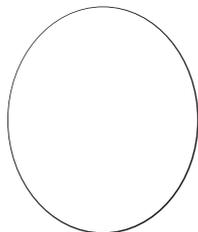
由に無条件に照応の義務が生ずることはありません。消防機関には実施基準の遵守義務が課せられる一方、医療機関はこの実施基準を尊重するよう努めることとされています。

5. 総務省では、平成 22年度から市町村及び都道府県が行う私的二次救急医療機関への助成にかかる経費について特別交付税措置を創設しましたが、対象となる医療機関は実施基準における医療機関のリストに位置づけられていることが必要とされています。

今次の消防法改正は第三次救急医療機関が多数あり、医療資源も豊富で、それにもかかわらず受け入れ医療機関の選定困難事案の多い大都市圏を想定したものと思ひられます。1～2か所の第三次救急医療機関しかなく、医療資源も乏しく、しかも広域の人口過疎地域を抱える本県のような地方の医療現場の実情を今次の改正消防法に反映することは困難なものと思ひられます。実際、宮崎県のすべての消防機関において の受け入れ医療機関確保基準で宮崎大学附属病院がリストアップされており、大学附属病院に大きな負荷が掛かっています。可及的に大学附属病院の救急救命センターの強化が望まれるところ です。

また、今回の消防法改正に伴う搬送受け入れ実施基準にリストアップを依頼された医療機関におかれましては可及的にご協力をお願いし ます。

## 随 筆



## 50周年・50年ぶりのことども

西都市 西都病院 ^{とも なり ひさ お}友 成 久 雄

この春、医学部卒業後50年のクラス会があった。24,5歳から50年経ったわけで、この年月は私たちの人生の主要部分を占める。新米医師からベテランになり、働き盛りを過ぎ、そして今、仕事人生は終わりに近づいている。一方、結婚し、子供を育てたのも遠くなり、20年以上前から夫婦二人だけの家庭生活になっている。仕事と余暇活動を通じて多くの人との出会いや別離もあった。振り返ると50年の人生はやはり平坦ではなく、思いがけない出来事や体験があり、それとともに喜び・悲しみ、苦しみ・楽しみを味わった。とくに若いときには失敗も少なくなく、内心忸怩たるものがある。それらを具体的に書けば自分史の大部分を占めることになるだろう。

## 卒後50年クラス会

卒業した85,6人中20人近くがすでに亡くなっていた。しかし、パーティの出席者はこれまでもっとも多かったようだ。奥さんも多く混じって、少し華やいだ雰囲気だった。すでに閉院したという開業医などもいたが、大多数の人はまだ医療の仕事に関わっているようだった。医者の仕事人生は長いものだ。私の場合も数年前から体調が不安定だが、なんとか勤められているのは幸せなことだろう。

ところで、昔の級友たちを見ると、外見が老けた人と若く見える人の2グループに分かれていた。それは単なる個人差ではなかった。学生時代に親しかった人たちやその後時々会っ

た人たちは、風貌がさほど変わらず、自分より若いように思えた。そのことを親しかった友人に話すと、「あんたも昔と変わらんよ」と言われた。変化している現在を以前の記憶で見るのだろうか。誰なのか認知できない人もいた。

振り返ってみると、20年前公立病院を辞めた頃から、親しかった級友とも交流が減っていて、疎遠になっていることが多かった。親類も同様で、私の場合学会にあまり行かなくなったのも大きな原因になっている。親類も友人も東京に多いが、勉強も上京もおっくうになっていたから。最近のように何年かに一度しか会わないでいたら、「死ぬまであと何回会えるのだろうか」と、寂しい気もするのである。

話は前後するが、卒後50年の記念誌を作るということで、一年前に幹事から原稿を送るようになってきた。その項目の中に「抱負など」という欄があった。それを見て、すでに自分には抱負など無くなっていることに気づいた。10年前には仕事関係以外でもいろいろあった。エッセイ集を出そうとか、囲碁をもっと上手になりたいなど。今一番の楽しみになっているガーデニングを始めたのも10年ぐらい前だった。まだ、目標があり、頑張っていたのだと思われる。

私はこの10年間では病気もよくして、通算半年も入院している。腎臓結石、肺炎、眼底出血など軽くない病気ばかりだった。5年前からは周期的な心身の不調に悩まされている。これももっと軽快するか、治癒することが現在の私の

最大の願いである。さらに、「健康寿命があと 10 年ぐらい続いてくれないかな」と思う。同時に、「メタボの妻がその間元気でいてほしいな」と願う。それらは希望というより願望である。現在の唯一の夢は、仕事からリタイアする頃、妻と一緒に世界一周のクルージングに出掛けることである。その時体力や資金が残っているか問題だが。主観的にはもっとも速く過ぎた 10年だったのだが、10年という時間は、「やはり大きいな」と感慨を覚える。

#### バドミントン部創立 50周年

一昨年、母校のバドミントン部創立 50周年記念の祝賀会が熊本で開かれた。来賓も混じって、100人ぐらいの盛大なものだった。現部員が 30名近くいるというのには驚いた。私が創立した当時は数人で、2年後に卒業する頃も 10名ぐらいだった。OB も 150人ぐらいになり、文字通り今昔の感がある。クラブにとっては半世紀もの歴史ができたわけで、意義深く、慶賀なことである。

私がバドミントンを始めたのは昭和 32年、学部 2年の初め頃だった。前の年頃から巷で羽根つきのように遊ぶのがはやり始めていた。私は先ず同好会を作り、それが翌年医学部の正式の部として認められたのだった。2級下に A君という良きパートナーがいて、熱心に疲れも知らず練習したものである。すでにかなり上手だった香港からの留学生二人も加わり、付属看護学校の学生たちも一緒に練習することになったりして、楽しい雰囲気うちに上達していった。私は毎年開かれていた西医体(西日本医学部体育大会)に 3年次と 4年次(いずれも専門部)の 2回、主将として出場した。

しかし卒業後はバドミントンをやる機会には恵まれなかった。私はバドミントンで初めてスポーツの喜びと楽しさを知ることができた。そして、それに青春の情熱とエネルギーを存分に

注いだのだった。短期間の活動だったけれども、それは単なる快い思い出というに留まらなかった。私はそれでスポーツが好きになり、さらに、ひ弱だった私の身体にも人並みのスポーツ体力が出来た。それは私の人生に、大きなプラスになったと思う。

インターンのときアルバイトで精神病院に住み込み、当時、患者の唯一のレクリエーションだった卓球を楽しんだ。10年経つと、ブームになりつつあったゴルフに誘惑され、数年間熱中した。囲碁も卓球と同じ頃に始めたのだが、それらは楽しい余暇活動というだけではなかった。酒も飲めず、人付き合いが苦手な私にとっては人との交流のいい手段や機会になった。そして後年、卓球は私のもっとも得意なスポーツになり、ゴルフと囲碁は趣味になるのだった。

#### 50年ぶりの再会

2年前、東京の Hさんと 50年ぶりに再会した。初めて出会ったのは高校を卒業した昭和 28年(1953年)だった。当時、「学燈」というほとんど唯一の大学受験雑誌の懸賞問題に二人の名前が載った。彼は数学で、私は英語でそれぞれ最高点だった。長崎市の自宅にいた私は浪人生活の無聊もあって、長野県の彼に手紙を出してみたところ、直ぐに返事が来た。そして、夏にはやはり東京の予備校の講習に行くという。私たちは吉祥寺の叔父宅で初めて対面した。彼は育ちのいい秀才という印象だった。翌年彼は T大に、私は B大の医学進学課程に入学。彼の方が積極的に私を東京に誘ってくれ、2、3回会った。2年後私が熊大医学部に変わるときには、「友あり、遠方より来たる」と言って歓待してくれた。しかし、なぜかそれを最後に二人の交流は全く途絶えてしまった。

二人の交流が再開するきっかけをつくったのは、40年経って行われた甥の結婚披露宴だった。Hさんが甥と同じ会社だったのだ。彼は仲人だっ

た他の部長さんから、私が出席していたことを聞いたといって葉書をくれた。それから年賀状の交換が始まった。そして数年後、私が出版したエッセイ集を送ると、「自分もエッセイを書いている。一度東京で会う機会をぜひつくってほしい」と言ってきた。そして一昨年再会が実現したのだった。別れてから実に 53 年ぶりであった。

風貌に昔の面影はなかったが、なんとなく懐かしい感じがして、親しい談話ができた。彼は金属学科を出て、若い頃には甥と同じく、南米の支社に勤務したこともあったという。最近、短歌を始めて、雑誌に投稿しながら、悠々自適の生活を送っているようだった。「また会いたいですね」と言って、名残惜しそうに別れた。二人は同じ歳だが、同窓でも同級でもない。幼なじみとも言いがたいから、やはり旧友というべきか。この再会は、親しい親戚や友人の訃報が増えたなかで、新しい出会いのように嬉しいものに思われた。二人の付き合いは今後も続きそうである。

#### 50 年ぶりのバドミントン

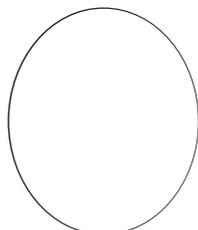
人生には思いがけないことが起こるものである。もはや遠い思い出に過ぎなくなっていたバドミントンを、50 年ぶりに再び始めることになったのだ。数年前田舎に買った中古住宅の裏庭にバドミントンのコートを作ることにした。もっともスペースを取らないから、有効に利用できるわけだ。半年後、木々に囲まれたコートが完成した。10 人足らずの知人とこけらおとしをすませて、練習をやってみた。ミスショットは多いが、脚もなんとか動いて羽根のやりとりができた。まだ筋肉の記憶が残っていたのだ。翌週、妻を誘ってみると、日頃運動を嫌がる彼女が意外にも興味を示した。彼女は昔道端などでやっただけと言うが、羽根つきの段階を脱している

のは予想外だった。屋外でもコートやネットがあると、面白さが違う。それに、運動具店で求めた正式のラケットは驚くほど軽量化していて、昔の竹製のとは比較にならない。自分の腕力は相当落ちているはずなのに、シャトルを軽く飛ばせる気がして痛快だ。前の年のオリンピックで女子の試合を観戦し、そのパワーとスピードに驚いたものだが、「こんな軽いラケットだったら高齢者でもやれそうだな」と思った。何より喜ばしいのは、メタボの妻が私の誘いに乗ってくることだ。私の大きな心配が一つ無くなるかもしれない。週に 2 回はやろうと申し合わせて、正月から通った。先ず、知り合いのメタボの人たちを誘おうと思うが、小学生などにも開放すれば、バドミントンの普及にも多少役立つかもしれない。私がこれから始める PR は、「青空の下でバドミントンをやってみませんか」である。

私的なことになるが、数年後には金婚式を迎える。ちょうど平均寿命に達する年である。子供の成長や家の新築などは大きな喜びだったが、思わぬ失望や苦労もあった。妻が 40 歳頃から油絵で才能を発揮したのは予想しないことだったが、そのお陰で絵画の鑑賞が、性格も好みもまるで違う二人に共通な唯一の趣味になっている。また、私は 50 歳頃から多くの病気をしたけれども、医学の進歩でここまで生きてこられた。一方、妻には心配や世話をかけたので、感謝しなければいけないと思う。

50 周年とか 50 年ぶりというのは、個人の長い歴史が刻まれているわけで、感慨深いものがある。悔いも憂いも加齢とともに増すと言われるが、時間は人生の内容にお構いなく飛んでいく。そして、その残量は当然ながら減るわけである。外見的には慶賀な「50 年」も悲哀やはかなさが伴う。

寄 稿



## 「医療用漢方製剤の薬価削除反対運動」 協力のお礼

宮崎県東洋医学会 副会長 かわ川 ごえ越 ひろ宏 ふみ文

日頃より宮崎県医師会の会員の先生方におかれましては、我々東洋医学会へのご理解とご協力を賜りまして誠に有り難うございます。特に昨年末の「医療用漢方製剤の保険薬価削除問題」の際にはご心配とご迷惑をおかけいたしました。お陰様でこの問題についてはひとまず良い方向に向かいつつあるようです。今回の件に関して感謝の言葉を申し上げますとともに、現況についてご報告させていただきます。

昨年の事業仕分け第1弾2日目、第2ワーキンググループでの討論・最終ペーパーに、突然「医療用漢方製剤の保険削除」という文言が押し込まれました。我々東洋医学会といたしましても強い危機感を持つこととなりました。宮崎県東洋医学会としまして、そのことを速やかに会員の先生方にお知らせするとともに、削除反対のための署名運動にご協力賜りますようお願い申し上げます次第です。

今回の問題は、これまでの事務次官経験者による「保険外し」というアドバルーン的なリーク報道と大きく異なり、数週間後には予算組みが

始まるという短期決戦が予想され、日本東洋医学会・日本臨床漢方医学会を中心に、全国各地で様々なメディア対策、ロビー活動を行うとともに、国民に対して反対署名を行いました。宮崎県医師会の先生にお集めいただいた署名もこの中に含まれております。

幸い国民の皆様のご理解をいただき、10万人に届きそうな数の署名を頂きました。それは当時の厚労大臣宛に送り届けられ、最終的には医療用漢方製剤の保険収載は続けるという結論を得ることが出来ました。県医師会の関係の皆様には重ね重ね有り難うございます。その後、国会審議で漢方医学を含めた統合医療に関する厚労省の窓口を一本化することと、研究のための予算を獲得することが決定されました。

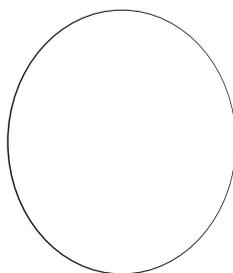
今回の事件の背景にある真の狙いに注目しつつ、漢方医学のエビデンス作りと日本の伝統医学である漢方医学を含めた統合医療の拡充のため、更に努力が必要と思われました。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願いします。

叙勲・祝賀

旭日双光章

か い ふみ あき  
甲 斐 文 明 先生（日向）

秋の叙勲において旭日双光章を受章されました。衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

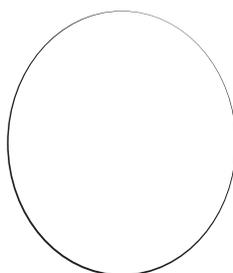


甲斐 先生

瑞宝中綬章

みの た せつ お  
蓑 田 節 夫 先生（児湯）

秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



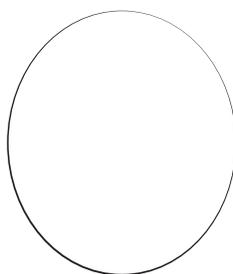
蓑田 先生

表彰・祝賀

社会保険診療報酬支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰

いわ むら たけ し  
岩 村 威 志 先生（宮崎）

10月 19日，社会保険診療報酬支払基金功績者として厚生労働大臣表彰をお受けになりました。今後ますますのご活躍を祈念いたします。



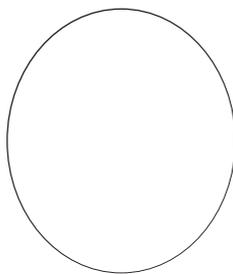
岩村 先生

国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰

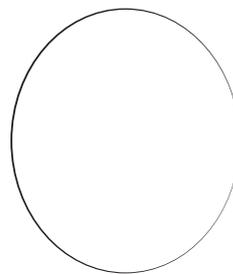
こ まき ひとし  
小 牧 斎 先生（宮崎）

しま やま とし お  
島 山 俊 夫 先生（宮崎）

10月 20日，国民健康保険関係功績者として厚生労働大臣表彰をお受けになりました。今後ますますのご活躍を祈念いたします。



小牧 先生



島山 先生

表彰・祝賀

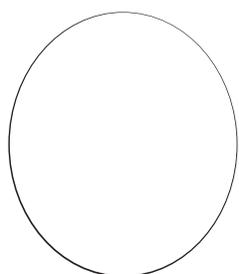
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

お ぐら かつ まさ  
小 倉 克 正 先生（宮崎）

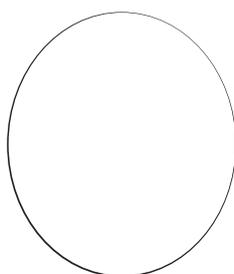
なか むら けん じ  
中 村 権 二 先生（延岡）

やま み ふみ お  
山 見 文 雄 先生（南那珂）

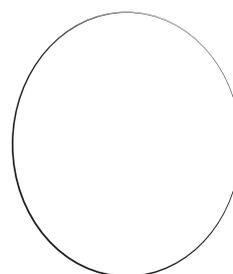
11月 2日，公衆衛生事業功労者として厚生労働大臣表彰をお受けに  
なりました。今後ますますのご活躍を祈念いたします。



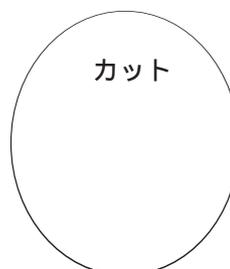
小倉 先生



中村 先生



山見 先生



カット

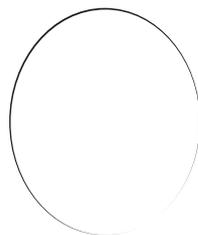
## エコー・リレー

( 424回 )

( 南から北へ北から南へ )

## 日々雑感

綾町 たまきクリニック 玉置 昇



綾町に内科診療所を開院し、あっという間に16年も経ちました。19歳まで大阪、その後宮崎で暮らし、現在に至っています。歳をとると時間が早く進むとよく言われますが、まさに最近それを実感しています。実は若い頃にもっと頑張って勉強しとけば良かったと悔やんでいました。何を今更と言われそうですが、平成19年に社会人大学院に入学しました。勉強は自己努力でできますが本当は大学院に行きたかったのですね。紙面をお借りしまして色々ご迷惑おかけしお世話になっている諸先生方や家族に感謝申し上げます。入学したからには無事卒業できるように頑張りたいと思います。最近は開業医でも参加できる臨床研究がいくつかありますが、臨床医としてのモチベーションを高め、仮説をリアルワールドで検証する勉強にもなります。臨床研究に参加することで日常診療への集中力が高まり、その結果患者さんにより良い医療を提供できるのではないかと思います。かつて故津田和矩教授から「リサーチマインドを忘れるな」と指導を受けました。今、その言葉を肝に銘じて診療を続けたいと思っています。この原稿を執筆中、ある先輩の先生からお手紙を頂きました。突然の病に倒れ、想像を遙かに超える苦しみと努力があったと思いますが、驚異的な精神力と御家族の愛情で病を克服しそれを生きるバネにして素晴らしい毎日を送っておられる姿に感動し努力の大切さを教えて頂きました。私も先輩を見習い情熱と努力を忘れずに日々を過ごしたいと願っています。

〔次回は 都城市の鶴木 俊秀先生にお願いします〕

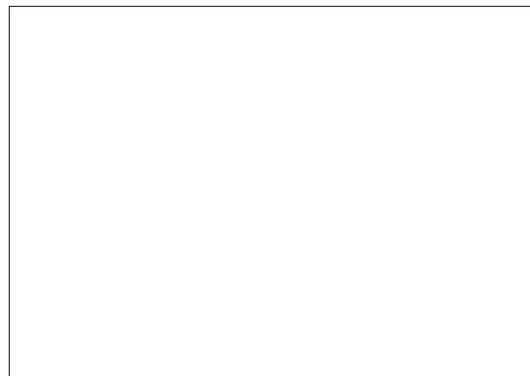
## 仮装ランナー

宮崎市 市民の森病院 森 継 則

青島太平洋マラソンのコースが市街地が変わった事もあり、沿道で応援してくださる人々に受けを狙って、仮装して走ろうという事になりました。職場の友人と思案して、私は淡い緑色のフリース素材の河童の着ぐるみを、相棒は鹿の子シャツ素材の黄色のトラの着ぐるみを購入しました。これらに深い意味は無く、ボランティアの方々や子供たちの笑いが取ればそれで十分と思っての事です。綾マラソンでデビューしましたが、先ず会場でこの格好になるのにちょっと勇気が要ります。ですが類は友を呼ぶの言葉通り、仮装の集団が自然と出来上がり、お互いに品評が始まります。いざ走ってみると風通しが悪いため汗が噴出し、かなり体力を消耗します。これはまずいと、青島太平洋マラソンではとどこどころに空気抜きの切込みを入れて工夫をしましたが、ゴールした時はよれよれの状態でした。

昨今のジョギングフィーバーは、美ジョガーと呼ばれる若い女性たちがランスカ(ランニングスカート)などのカラフルなウェアを身にまとい、外を走り出した事で男性たちを引き込んだのではないかと思います。アパレル業界の戦略とメタボブームがあいまって、それなりに良い傾向がもたれませんか。

健康のために体を動かすのは良い事です。無理をせず、スロージョギングをお勧めします。ゆっくりと周囲の景色を楽しんで息が切れない程度で、そして仮装をして楽しみましょう。



〔次回は 日南市の江藤 琢磨先生にお願いします〕

## 宮崎県感染症発生動向 ~ 10月 ~

平成 2年 10月 4日 ~ 平成 2年 10月 30日( 第 40週 ~ 43週 )

## 全数報告の感染症

- 1 類：報告なし。
- 2 類：結核 17例が宮崎市( 8 例 )，日南( 3 例 )，高鍋・日向( 各 2 例 )，都城・中央( 各 1 例 )保健所から報告された。患者が 10例，疑似症患者が 2 例，無症状病原体保有者が 5 例で，患者は肺結核が 10例，その他の結核( 頸部リンパ節結核 )が 1 例( 肺結核を含む )であった。男性 12例，女性 5 例で，40歳代・90歳代が各 1 例，50歳代・60歳代が各 3 例，70歳代が 4 例，80歳代が 5 例であった。
- 3 類：腸管出血性大腸菌感染症 2 例が都城・小林( 各 1 例 )保健所から報告された。患者が 1 例，無症状病原体保有者が 1 例で，主な症状は軟便であった。原因菌の血清型は O 115_{VT1} 産生 )が 1 例( 有症者 )，O 9( _{VT1} 産生 )が 1 例( 無症状 )であった。年齢別では 10歳代と 30歳代であった。
- 4 類：○つつが虫病 1 例が都城保健所から報告された。70歳代の男性で発熱，肺炎がみられた。  
○日本紅斑熱 2 例が日南保健所から報告された。  
・40歳代の女性で発熱，刺し口，発疹，肝機能異常がみられた。  
・60歳代の男性で発熱，刺し口，発疹がみられた。  
○レプトスピラ症 1 例が宮崎市保健所から報告された。20歳代の男性で発熱，筋肉痛，結膜充血，頭痛がみられた。
- 5 類：○アメーバ赤痢 1 例が延岡保健所から報告された。50歳代の男性で腸管アメーバ症。粘血便がみられた。  
○破傷風 1 例が宮崎市保健所から報告された。60歳代の女性で筋肉のこわばり，開口障害，嚥下障害，発語障害がみられた。

表 前月との比較

## 5 類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は 2,317人( 定点あたり 74.2)で，前月比 67%と減少した。また，例年と比べると 127%と増加した。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ，RSウイルス感染症で，減少した主な疾病はヘルパンギーナ，手足口病，咽頭結膜熱であった。また，例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾病は伝染性紅斑，手足口病，流行性耳下腺炎，RSウイルス感染症，流行性角結膜炎であった。

インフルエンザの報告数は 35人( 0.59)で前月の約 17.5倍，例年の約 1 割であった。日向( 1.7)保健所からの報告が多く，年齢別では 5 歳以下が全体の 37%，6 ~ 9 歳が 20%，15~ 19歳が 14%，20~ 50歳代が 26%，60歳代以上が 3 %を占めた。

RSウイルス感染症の報告数は 371人( 10.3)で前月の約 1.2倍，例年の約 1.8倍であった。延岡( 31.8)，日向( 26.0)保健所からの報告が多く，年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 58人( 1.6)で前月とほぼ同数，例年の約 4.5倍であった。都城( 3.8)，小林( 3.3)，中央( 3.0)保健所からの報告が多く，年齢別では 3 歳から 5 歳で全体の約半数を占めた。

	10月		9月		例年との比較
	報告数 (人)	定点当 た(人)	報告数 (人)	定点当 た(人)	
インフルエンザ	35	0.6	2	0.0	
RSウイルス感染症	371	10.3	313	8.7	
咽頭結膜熱	38	1.1	91	2.5	
溶レン菌咽頭炎	153	4.3	150	4.2	
感染性胃腸炎	817	22.7	1,104	30.7	
水痘	117	3.3	143	4.0	
手足口病	141	3.9	347	9.6	
伝染性紅斑	58	1.6	56	1.6	
突発性発しん	161	4.5	216	6.0	
百日咳	3	0.1	1	0.0	
ヘルパンギーナ	27	0.8	113	3.1	
流行性耳下腺炎	321	8.9	403	11.2	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	67	11.2	170	28.3	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	4	0.6	1	0.1	
マイコプラズマ肺炎	2	0.3	0	0.0	
クラミジア肺炎	2	0.3	1	0.1	

例年同時期( 過去 3年の平均 )より報告数が多い  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

手足口病の報告数は 141人( 3.9)で前月の約 4 割, 例年の約 2 倍であった。延岡( 6.8), 宮崎市・中央( 各 5.0)保健所からの報告が多く, 年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 321人( 8.9)で前月の約 8 割, 例年の約 1.9倍であった。延岡( 25.8), 日向( 16.3), 日南( 12.0)保健所からの報告が多く, 年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

流行性角結膜炎の報告数は 67人( 11.2)で前月の約 4 割, 例年の約 1.8倍であった。宮崎市( 19.3)保健所からの報告が多く, 年齢別では 20歳代から 30歳代で全体の約半数を占めた。

### 月報告対象疾患の発生動向 10月

#### 性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数： 13

定点医療機関からの報告総数は 59人( 4.5)で, 前月比 109%と増加した。昨年 10月( 4.2)の約 1.1倍であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数 34人( 2.6)で, 前月の約 1.1倍, 前年とほぼ同数であった。都城( 7.0), 宮崎市( 3.8)保健所からの報告が多く, 男性 24人, 女性 10人で, 20歳代が全体の約 6 割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数 7人( 0.54)で, 前月の約 3.5倍, 前年の約 1.4倍であった。男性 3人, 女性 4人で, 20歳代と 30歳代が全体の約 6 割を占めた。
- 尖圭コンジローマ：報告数 2人( 0.15)で, 前月・前年の約 2 倍であった。30歳代の男性と 20歳代の女性であった。
- 淋菌感染症：報告数 16人( 1.2)で, 前月の約 8 割, 前年の約 1.1倍であった。男性 15人, 女性 1人で, 20歳代が全体の約 4 割を占めた。

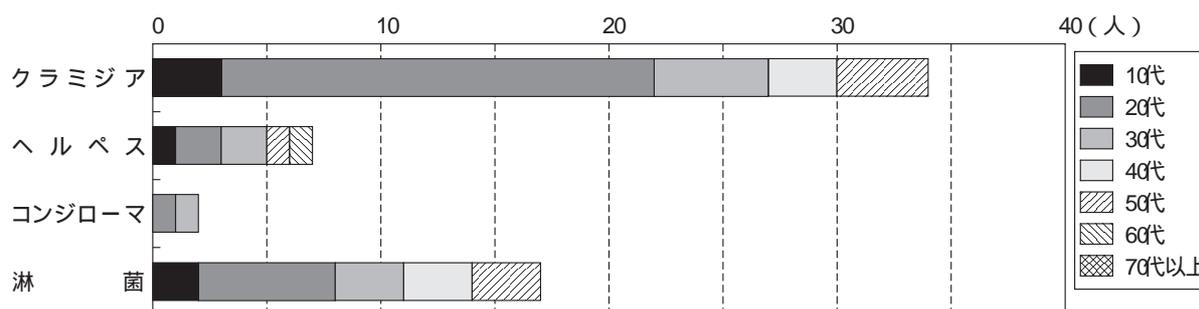


図 年齢別性感染症報告数 (10月)

【全国】定点医療機関総数： 967

定点医療機関からの報告総数は 4,471人( 4.6)で, 前月比 101%であった。疾患別報告数は, 性器クラミジア感染症 2,381人( 2.5)で前月比 103%, 性器ヘルペスウイルス感染症 679人( 0.7)で前月比 103%, 尖圭コンジローマ 478人( 0.49)で前月比 104%, 淋菌感染症 933人( 0.96)で前月比 93%であった。

#### 薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数： 7

定点医療機関からの報告総数は 28人( 4.0)で前月比 78%と減少した。また昨年 10月( 8.3)の約半数であった。

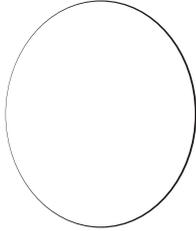
#### 《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数 20人( 2.9)で, 前月の約 7 割, 前年の約 6 割であった。日向( 5.0), 延岡・高鍋( 各 4.0)保健所からの報告が多く, 70歳以上が全体の約 7 割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数 8人( 1.1)で, 前月の約 1.1倍, 前年の約 3 割であった。宮崎市( 6.0)保健所からの報告が多く, 全て 1 歳から 9 歳の報告であった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】定点医療機関総数： 466

定点医療機関からの報告総数は 2,304人( 5.0)で, 前月比 102%であった。疾患別報告数はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1,876人( 4.0)で前月比 98%, ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 387人( 0.83)で前月比 136%, 薬剤耐性緑膿菌感染症 41人( 0.09)で前月比 75%であった。( 宮崎県衛生環境研究所)

## メディアの目



## 政府与党の医療改革はいずこ？

読売新聞宮崎支局長

せん だ しん じ  
千 田 伸 二

いまさら、民主党政権に抜本的な「医療改革」を求めするのは酷なのだろうか、最近つくづく考えさせられる。民主党が先の衆院選で掲げたマニフェストの目玉が完全に実施できていないことくらいだれもが知っているからだ。なかでも、医療改革に関するマニフェストは「文字」だけ読むと、まさに「バラ色」の医療改革となっていた。「後期高齢者医療制度を廃止し、国民皆保険を守る」「医療崩壊を食い止め、国民に質の高い医療サービスを提供する」「がん、肝炎など特に患者の負担が重い疾病等について、支援策を拡充する」「障害者自立支援法を廃止して、障がい者福祉制度を抜本的に見直す」……。マニフェストのごく一部だが、さてさて、威勢のいい「約束」がこの先、実現できると考える国民はどれくらいいるだろう？

妻の母、つまり義母が今年3月、脳内出血で倒れ、いわゆる植物状態になってしまった。姉妹で懸命の介護を行っているが、「入院3か月の病院たらい回し」の当事者になってみて、改めて、今の医療行政の壁というか、弱者の側に立った制度改革なんて夢のまた夢だと、無力感におそわれる毎日だ。

県内の病院ではないのだが、同様に植物状態となった友人の父親は、運ばれた病院で転院先

の病院が見つからず3か月が過ぎ、現在はリハビリすら行われず放置状態だという。義母も療養型の施設で人間的な扱いを受けていない状況に家族の不満は高まるばかりだ。「植物状態はもう2度と回復しない」「回復しないのだからリハビリは無駄」。家族は「無理だ」と言われても、ありえない奇跡を願って看病する。脳幹の損傷を免れた義母は自発呼吸をしている。まばたきもすれば、あくびもする。それは意思のない行為だとわかっている、まるで眠っているようにしかみえない姿がそこにある以上、最大限のいつくしみをもって接するのはあたりまえだ。女房は義母に毎日話しかけ、手足をマッサージしている。他人から見れば奇異な行為だろう。だが、その行為は決して誰もが「無駄」とは言えないはずだ。

志の高い医者がいることは理解している。しかし、国の制度が整わない限り、現場の医師に不満をぶつける行為そのものがむなし。

現政権は言うだろう、「前政権の施策がだめだったからにほかならない」と。しかし、現政権はいついだれが担っているのか？国民に一度約束したことは、きちんと守るべきだ。マニフェストに掲げた目玉を一つくらい完全に実施したとしても、「前政権とは違う」と、いえるのだろうか。



## あなたできますか？

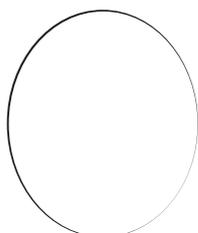
平成 2年度 医師国家試験問題より

(解答は 55ページ)

- 50歳の男性。呼吸困難のため搬入された。4日前に 37.6 の発熱と咽頭痛とがあり、市販の感冒薬を服用して様子をみていた。昨日から咽頭痛が悪化し、ものが飲み込みにくくなった。今朝から急激に増悪する嘔声と呼吸困難とを自覚している。意識は清明。身長 170cm, 体重 72kg。体温 39.6。呼吸数 24分。脈拍 116分、整。血圧 134/88mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) 93%。著名な咽頭発赤と頸部の圧痛とを認める。呼吸時喘鳴 (stridor) を聴取する。腹部所見に異常を認めない。  
まず行うのはどれか。
  - 呼吸機能検査
  - 咽頭内視鏡検査
  - 尿中肺炎球菌抗原検査
  - A 群 溶血性レンサ球菌迅速検査
  - インフルエンザウイルス抗原検査
- 42歳の女性。左眼の流涙を主訴に来院した。数年前から左眼に涙がたまりやすいことを自覚しており、1年ほど前から流涙をきたすようになった。涙道造影で涙嚢は正常に描出されており、そこから尾側の鼻涙管が造影されない。  
治療として適切なのはどれか。
  - 涙嚢摘出術
  - 下甲介切除術
  - 涙小管形成手術
  - 涙嚢鼻腔吻合術
  - 鼻内前頭洞手術
- 3歳0か月児のほとんどが到達している発達レベルはどれか。
  - 丸を模写する。
  - 一人で服を着る。
  - 三語文を復唱する。
  - スキップができる。
  - 高い、低いかわかる。
- 胸部大動脈から直接分枝する正常血管はどれか。
  - 右総頸動脈
  - 右鎖骨下動脈
  - 右椎骨動脈
  - 内胸動脈
  - 気管支動脈
- 産科手術と合併症の組合せで正しいのはどれか。
  - 帝王切開術 — 膀胱損傷
  - 吸引分娩術 — Erb麻痺
  - 頸管縫縮術 — 子宮穿孔
  - 鉗子分娩術 — 臍帯脱出
  - 骨盤位牽出術 — 帽状腱膜下血腫
- 室温 15 前後の室内において死後約 12時間経過した死体にみられるのはどれか。
  - 瞳孔が透視できない。
  - 腹壁の緑変が始まる。
  - 関節の硬直が高度である。
  - 体温が 15 に下がっている。
  - 体位を変えると死斑が容易に転移する。
- パニック発作中にみられるのはどれか。2つ選べ。
  - 解離
  - 徐脈
  - 呼吸促迫
  - 死の恐怖
  - 予期不安
- 学校保健について誤っているのはどれか。
  - 学校給食は教育の一環である。
  - 小学生で被患率が最も高いのはう歯である。
  - 小学校において胸部エックス線撮影は毎年全員に実施される。
  - 学校管理下における児童生徒の死因の第1位は突然死である。
  - 学校職員の健康診断は学校保健安全法(旧学校保健法)に基づいて実施される。
- 45歳の男性。独身。事務職。会社の定期健康診断の結果を持って医務室を訪れた。自家用車で通勤している。普段は朝食をとらずに出社し、昼と夜の食事は外食が多い。休日は自宅で映画のDVDを鑑賞して過ごしている。喫煙歴はない。飲酒は日本酒 2合 週を 2年間。定期健康診断の結果 身長 165cm, 体重 60kg, 腹囲 78cm。血圧 142/88mmHg。尿所見 蛋白(-), 糖(-)。血液生化学所見 空腹時血糖 100mg/dl, HDL-コレステロール 30mg/dl, LDL-コレステロール 120mg/dl(基準 65-139), トリグリセリド 120mg/dl, AST 25U/l, ALT 30U/l, GTP 40U/l(基準 8-50)。胸部エックス線写真と心電図とに異常を認めない。同時に実施した食事調査では摂取エネルギー量 2,200cal/日, 塩分摂取量 12.5g/日であった。  
指導として適切なのはどれか。2つ選べ。
  - 禁酒
  - 塩分摂取の制限
  - 摂取エネルギー量の制限
  - 身体活動量の増加
  - 精神的ストレスの軽減
- 54歳の男性。半年前からの労作時の息切れを主訴に来院した。眼瞼結膜に貧血を認める。血液所見 赤血球 130万, Hb 5.2g/dl, Ht 17%, 網赤血球 1.2%。  
考えられるのはどれか。2つ選べ。
  - 赤芽球癆
  - サラセミア
  - 鉄芽球性貧血
  - 巨赤芽球性貧血
  - 骨髄異形成症候群

## 宮崎大学医学部だより

### 機能制御学講座 - 統合生理学分野 -



たかみや こうご  
高宮 考悟 教授

当教室に 3 代目の教授として私が赴任して約 1 年半が経ちました。この間、私がした最初の仕事は、実験室の改装工事でした。いつでも気持ちよく仕事ができるように、なるべく明るく清潔な研究室をめざして現在の実験室が完成しました。実験室では、ウイルスを使用した実験や遺伝子操作動物を使った実験などが可能で、細胞レベルから動物個体レベルまでの解析をしながら、私の研究テーマであります、神経可塑性の分子機序に関する研究を包括的に行っていこうと考えています(詳しくは、当教室のホームページをご覧ください。<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/1physiol/>)。また、当教室の隣には、共同実験施設であるフロンティア研究施設の一部の電気生理ラボが併設しており、動物を使った電気生理学的解析、長期間の観察を可能とする慢性動物実験室、さらに細胞や脳から切り出した急性スライスを用いたパッチクランプを行う機器が揃っています。このような環境で、やっと本年度ぐらいから少しずつ実験らしいことが行えるようになってきました。

当教室のメンバーといたしましては、花森隆充准教授と國武孝人助教は、ひきつづき以前の研究を継続し、学生教育にもご協力いただいています。さらに私が赴任後、新たに若園佳彦助教に加わっていただき、パッチクランプを

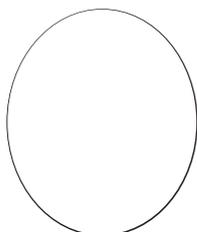
用いた研究や、さまざまな光学的システムを導入した研究が可能となりました。事務職員の小川さんと壺岐さんも、実験や講義など諸々のお世話をしていただきつつ、毎日お元気で働いておられます。さらに、留学生を含む 3 人の大学院生が加わり、また 3 人ほどの医学部学生も不定期ながら出入りしています。こうして少しずつですが、教室らしい形ができつつあります。

学生教育に関しましては、医学部 2 年生に統合生理学の系統講義と 3 年生に神経科学の講義を担当しています。系統講義におきましては、将来の臨床教育につながり、長く頭にのこる知識を、学生には身につけてもらいたいと思っています。また 3 年生対象の神経科学の講義では、系統講義で学んだ基礎的知識が、どのように臨床における勉強とつながっていくのか、またそれらと関連して今世界の最先端では、どんなことが研究されているのかといった視点で、臨床の先生方のご協力と最新の原著論文のプレゼンテーションなどを通じて、学んでもらいたいと思っています。

学生には、臨床実習に出る前に CBT(Computer Based Testing)という多肢選択試験にパスすることが要求されます。従いまして、その対策も兼ね、学問としての神経科学・神経生理学と試験用の網羅的知識の両者をカバーできるように、今後、学生教育を進めていきたいと考えています。

次回皆様にご挨拶をさし上げる際には、一研究室として、世界に問えるような研究をするまでに成長し、それを本学の学生と一緒に推し進めていけるようになった教室になったことをご報告できるよう、がんばっていきたくと思っています。(高宮 考悟)

## 専 門 分 科 医 会 だ よ り (放射線科医会)



たむら しゅうぞう 会長  
田村 正三 会長

放射線科医会は昭和 53年  
に 10数名の会員で発足し  
た。発足当時は規模が小さ  
すぎるので医会と称するの  
がはばかられ、長く放射線  
医の会と呼び習わしていた  
そうである。放射線科医会  
は科の性格上、開業医が少  
なく、渡邊教授の時代から  
放射線科教授が会長を務めている。画像診断が  
長足の進歩を遂げ、現代の診療に重要な役割を  
担うようになったが、宮崎県の会員数は伸び悩  
んでいる。平成 13年に渡邊前会長の書かれた分  
科医会だよりによると会員数は 117名となっ  
ており、17年の会員数は 116名である。会員数は  
大学放射線科の医局員およびOB・OG 数にほ  
ぼ一致しており、大学の入局者はこのところ年  
間 1 から 3 名なので現在の会員数は推定ではあ  
まり増加していない。

全国的には放射線科医は漸増を続けている  
が、読影すべき検査件数はそれを上回る速度  
で増えており、さらに専門医による読影件数は  
その数倍の伸びを示している。すべてのCT、  
MRIを読影するには現在の2ないし3倍の放  
射線科医が必要と言われている。

死亡時画像診断、いわゆる autopsy im ag-  
ing については以前に紹介した。平成 22年 3月  
の日本医師会のアンケート調査では、患者死亡  
時になんらかの画像を撮影したことがある医療  
機関が、調査された約 2,500病院のおよそ 36%  
にのぼるとされ、かなりの広がりを持って行わ  
れていることが窺える。日本医学放射線学会で  
も死後画像診断に一定の価値を認め、正しい普  
及のため全国学会で教育講演がもたれるなど、

教育活動に乗り出してきている。宮崎大学でも  
附属病院内にAi専用のCTを設置しており、昼  
間の病院業務時間内にも撮影できる体制を目指  
している。

放射線科医会では引き続き以下の研究会を共  
催し、県内の興味ある症例を報告すると共に、  
全国の一流講師を招いて会員の知識の啓発に努  
力している。

今年度の研究会と特別講演者は以下の通りで  
ある。

1. 宮崎県核医学研究会  
京都府立医科大学放射線診断治療学教授  
西村 恒彦先生
2. 宮崎 CT 研究会  
東京女子医科大学放射線科教授  
坂井 修二先生
3. 宮崎 MRI研究会  
大阪市立大学放射線医学教室教授  
三木 幸雄先生
4. 宮崎血管内治療 IVR 研究会  
大分大学放射線部准教授 清末 一路先生
5. 宮崎 RIカンファレンス  
日本医科大学放射線医学教授  
汲田 伸一郎先生
6. 宮崎県画像医学研究会
7. 宮崎県肺癌研究会  
国立がん研究センター呼吸器内科外来医長  
久保田 馨先生
8. 宮崎県放射線治療研究会  
近畿大学放射線科准教授 柴田 徹先生
9. 放射線科医会学術講演会  
宮崎大学公衆衛生学教授 黒田 嘉紀先生  
画像診断、放射線治療に興味がある先生方  
のご参加をお願いします。

## 宮崎県医師会親善ゴルフ大会

と き 平成 2年 11月 3日(水・祝日)

ところ ハイビスカス G . C .

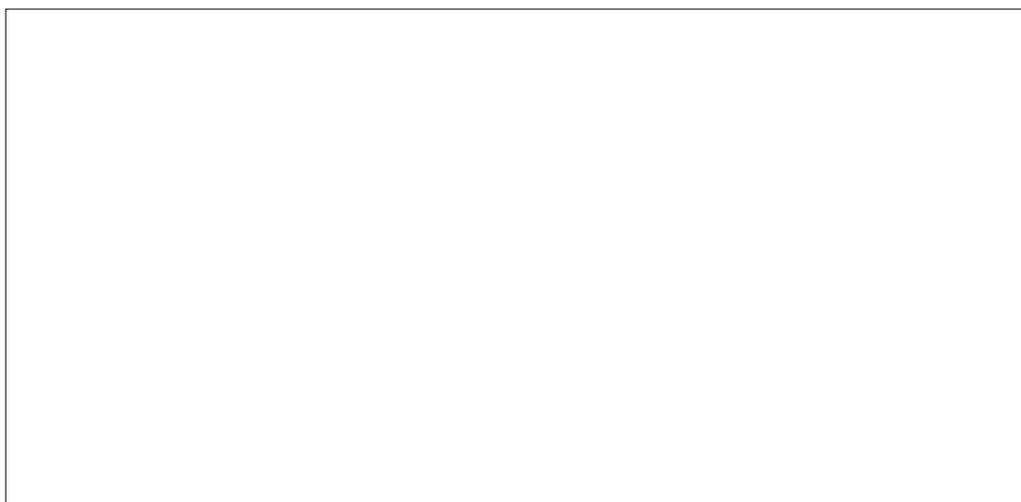
恒例の県医親善ゴルフ大会が、ハイビスカスゴルフクラブにおいて開催され、25名の会員の先生方が参加されました。

ゴルフ日和の晴天の中、熱戦が繰り広げられ、無事に大会を終了することができました。

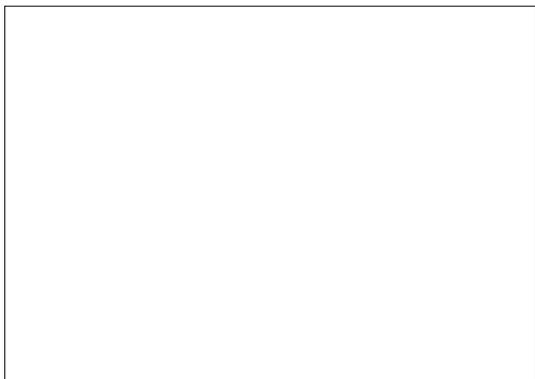
今大会の競技方法は、18ホールズストロークプレイダブルペリア方式(同ネットの場合は年長者を上位)で行われ、団体戦は宮崎市Cチームが優勝、個人戦は、年齢別にA・B・Cの3区分に分けて行い、A：弓削達雄先生(宮崎)B：永友和之先生(児湯)C：丹光明先生(西諸)がそれぞれ優勝されました。成績は以下の通りです。

団体戦	郡市名	NET合計	各郡市 NET 上位 3 名							
優勝	宮崎市郡 C	221.0	弘野 修一	71.2	坂本 英典	74.2	神戸 光	75.6		
準優勝	西諸医師会	223.6	丹 光明	70.8	前田 譲治	73.4	前田 和伸	79.4		
3 位	日向・児湯混成	224.6	長田 浩伸	72.2	永友 和之	73.2	喜多 省保	79.2		

個人戦	会員名	OUT	IN	GROSS	HD	NET	
A	優勝	弓削 達雄	44	42	86	13.2	72.8
	準優勝	前田 譲治	47	42	89	15.6	73.4
	3 位	日高 正昭	51	46	97	20.4	76.6
B	優勝	永友 和之	44	46	90	16.8	73.2
	準優勝	濱田 政雄	48	48	96	22.8	73.2
	3 位	神戸 光	55	53	108	32.4	75.6
C	優勝	丹 光明	43	41	84	13.2	70.8
	準優勝	弘野 修一	41	41	82	10.8	71.2
	3 位	長田 浩伸	42	47	89	16.8	72.2
B G 賞	弘野 修一	82					
N P 賞	日高正昭, 篠原義成, 小玉徳信, 弘野修一, 永友和之, 丹 光明, 濱田政雄						

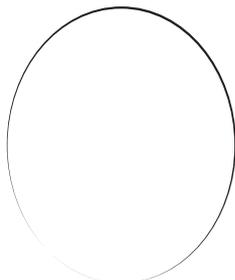


## 団体戦優勝 宮崎市郡医師会 C チーム



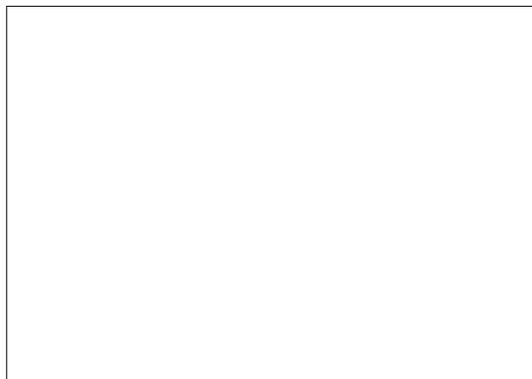
宮崎市郡医師会のしのめゴルフを 2 年間お手伝いする流れで、今回初めて県医師会親善ゴルフ大会に参加しました。終わってみるとなんと団体戦優勝。優勝メンバーの神戸先生、坂本先生、そして宮崎 C チームの皆様お疲れ様でした。また、各都市医師会の諸先輩方の肌つやのよさとはつらつとしたプレーをみて、私も将来あのように元気にプレーできたらいいなと思った次第です。普段なかなかお会いできない方々とゴルフを通じて親睦を深めるこの大会ですが、今後ますます多くの先生方が参加されて盛会となりますようにお祈りいたします。（弘野記）

## 総合優勝 西諸医師会 丹 光 明



すばらしい秋晴れの下、弘野修一先生、前田和伸先生、長田浩伸先生、楽しいラウンドをありがとうございました。その上、個人総合優勝は出来過ぎです。

最近は下肢筋力低下を痛感し、お蔵入りになっていた自転車を引っ張り出して通勤に使い始めました。初めは片道 30m の道程でも筋肉痛があり、ゴルフもシャンクは出るわ、変なフックは出るわで、スコアはあきらめておりました。しかし、自転車通勤 2 週間目での優勝は、自転車通勤継続の大きな後押しになりそうです。今後も筋力強化に努め、二連覇を目指したいと思います。ありがとうございました。



表彰式

## 各種委員会

## 健康教育委員会

と き 平成 27 年 10 月 15 日(金)

ところ 県医師会館

テレビ会議：延岡・南那珂

松本常任理事の司会で開会した。稲倉会長からの挨拶の後、松本常任理事より全理事会において委員長に中山健先生、副委員長に帖佐悦男先生が選任された旨報告があり、その後委員の自己紹介を行った。

次に、稲倉会長から諮問事項「県民への健康教育のすすめについて」の検討および審議をしていただくよう依頼があり、中山委員長の進行で議事を行った。

## 報 告

## 1. 平成 27 年度健康教育事業について

昨年度宮崎県医師会が開催した、健康教育事業「ラジオおしえて！ドクター、宮日新聞等」、会員・各専門分科医会が行った健康教育事業について報告をした。

## 2. 宮崎県医師会県民健康セミナー(平成 27 年 5 月 30 日開催)について

「子宮頸がん」のテーマで、検診の受診促進およびワクチン接種の啓発、行政への公費負担助成の働きかけを目的に開催した。162名の参加を得て大変好評であった。

## 協 議

## 1. 平成 27 年度宮崎県医師会県民健康セミナーについて

今年度は県民健康セミナーを 5 月 30 日開催分を含めて計 3 回行う予定であり、残り 2 回の企画をした。まず、12 月 5 日に「高齢者難治

性疾患」をテーマとして、パーキンソン病と認知症の 2 つの疾患についての講演を行うことが決定した。また、2 月頃には「嗜好品」と「健やかに老いる」の 2 つをテーマに、サプリメント、骨粗鬆症と転倒予防の講演を行うことで進めていくことになった。

## 2. 諮問事項について

諮問事項について、2 年間かけて検討し、答申することが説明された。

出席者 - 中山委員長、帖佐副委員長、板野・松本・野田・莫根・青木・戸田委員(県医) 稲倉会長、河野副会長、松本常任理事、杉田課長、喜入主事

## 医学会誌編集委員会

と き 平成 27 年 10 月 22 日(金)

ところ 県医師会館

上田理事より開会、協議が行われた。

掲載論文 12 編からなる第 34 巻第 2 号のカテゴリーの検討が行われ、総説 2 編、臨床研究 1 編、症例 3 編、診療 3 編、地域医療 2 編、クリニカルカンファレンス 1 編が決定した。

第 35 巻第 1 号総説の執筆依頼については、委員長へ一任することが承認された。

出席者 - 菊池委員長、岩村副委員長、長友・谷村・黒川・森・春田・植田・松本・稲津・松岡・河野・阿南委員(県医) 富田副会長、上田・直井理事、杉田課長、三田係長

## 各種委員会

### 第 2 回公益法人化検討委員会

と き 平成 22年 10月 25日(月)

ところ 県医師会館

川名委員長の開会宣言の後、稲倉会長から挨拶が行われ、協議に入った。

#### 1. 県医師会事業区分について

県医師会が行っている公益的各事業を公1から公6まで分類した。収益事業等としては、福祉特別事業と会員福祉対策事業を区分している。公益認定を受ける場合は、移行認定申請書の別紙2の様式で各事業の概要や公益性についてうまく説明することが求められる。委員：公益法人の理念は素晴らしいと思うが、何故、今、公益法人を選択しなければならないのか根本的なところをどう考えておられるのか。

県医：一つ問題となっているのは、母体保護法指定医師の指定権に関することがある。現在の法律では公益社団法人たる医師会に指定権が委ねられており、日本医師会に一般社団法人でも指定できるように各県から要望しているが、まだ解決していない状態である。

委員：前回の竹之内公認会計士の話で、医師会のビジョンというのが大事だということであったが、公益事業に関する色々な区分が示してあるが、県医師会のビジョンとの整合性はどういうふうに考えておられるか。

県医：県医師会の実施事業を区分する作業を通して、各事業の予算と費用が出て来たので、どこに力を入れていくべきか、県医師会のビ

ジョンとしてどこにお金をかけ、事業をやっていくべきかが逆に見えてくる気がしている。

#### 2. 管理費の各事業配賦について

管理費については、公益目的事業比率などの財務基準をみる時に、各事業へ按分する必要がある。そのやり方として、従業員の従事割合アンケート調査の結果や、役員の会議出席状況を割り出し、配賦基準とした。

#### 3. 財務三基準について

##### 収支相償

公益目的事業に係る収入が、その実施に要する適正な費用を償う額を超えないこと。  
(収支トントン以下)

判定は第二段階で行う。

第一段階：各公益目的事業単位で収入と費用等を比較して判定

第二段階：公益目的事業全体で判定  
収益事業等から(利益の50%以上を)公益目的事業に繰り入れた金額も、公益目的事業の収入にカウントして判定

第一段階の判定は、公1から公6まで全て要件を満たしている。第二段階も収益事業からの利益の50%超を繰り入れても赤字となり、要件を満たしている。

## 公益目的事業比率

毎事業年度における公益目的事業比率が 50/100 となるように公益目的事業を行わなければならない。

$$\frac{\text{公益実施費用額}}{\text{公益実施費用額} + \text{収益等実施費用額} + \text{管理運営費用額}} = 50\%$$

公益目的事業比率が 83.5% となり、50% 以上で要件を満たしている。

## 遊休財産

公益目的事業又は公益目的事業を行うために必要な収益事業等その他の業務・活動のために現に使用されておらず、かつ、引き続きこれらのために使用される見込みのない財産

## 【計算方法】

純資産(資産 - 負債) - 法人法 13 条基金 - 控除対象財産(対応負債の額は控除)  
保有制限額：1 年分の公益目的事業費相当額

資産合計が 1,390,036 千円、負債の合計が 815,265 千円であるので、純資産(正味財産)が 574,771 千円となる。これから対応負債を除く控除対象財産額(210,334 千円)を差し引くと 364,437 千円となり、これが遊休財産である。

これに対し、公益事業活動支出見込額が 364,437 千円であるので、比較すると保有制限額が 47,308 千円のオーバーとなる。そこで、対応策としては特定費用準備資金に繰り入れることで遊休財産保有制限をクリアできる。たとえば、23 年度に担当する九州医学会の準備資金として積み立てられないか。また、看護学校に現在 462 万円ずつ助成しているが、これを 10 年間基金として作っておけないだろうかと考えている。これを県が認めてくれるかは微妙であるが、何か知恵を出してオーバー分を控除対象財産に繰り入れることでクリア

したいと考えている。

委員：遊休財産については、47,000 千円の分は対応案のように、公益目的事業名目で積み立てるような振り分けができれば、クリアできるということか。

県医：そのとおりであるが、このように積み立てると他の用途には使えないということがある。また、どういう支出があるという計画を出す必要があり、実際にそういう支出があるのか、計画どおりいっているのかを毎年見られる。そのため、いい加減な積み立てをして、うまくいかないとなるとペナルティーがある。

## 4. 一般社団法人を目指す場合の公益目的支出計画について

正味財産が 574,771 千円であるが、これから土地の時価評価額と帳簿価額との差額調整をすると 510,165 千円となり、これが公益目的財産額となる。公益目的支出額は公益目的支出の見込額から継続事業収入の見込額を除いて 97,634 千円となり、公益目的支出計画の実施期間が 510,165 千円 / 97,634 千円で 5.22 年、仮に土地を帳簿価額とした場合は 5.88 年となる。事業の内容も殆ど変えることなく、支出計画が 5 年くらいで終了し、県の監督もなくなるということになる。

今回は来年 1 月開催を予定し、公益と一般のメリット・デメリットやガバナンス等について検討することを確認して終了した。

出席者 - 川名委員長、山元副委員長、  
鮫島・内村委員  
(県医) 稲倉会長、富田・河野副会長、  
立元常任理事、大重事務局長、  
児玉次長、榎本・竹崎課長、  
小川課長補佐

## 地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議

と き 平成 22年 11月 16日(火)

ところ 県医師会館

石川常任理事より、「県下7か所の地域リハビリテーション広域支援センターのうち、4月に県北、西都児湯、西諸のセンターの交代があった。上半期の活動を通して、運営上の課題や問題点が見えてきたころだと思うが、本日は他のセンターや保健所等と意見交換していただき、下半期の活動にとって有益な会議にしていきたい」と挨拶をした。

### 議 事

#### 1. 運営、活動状況について

各広域支援センターから資料に基づき上半期の活動について報告があった。新センターは相談件数が少なかったが、認知度が上がるにつれ徐々に上向いているようである。その中でも県北センターは各団体にセンター指定の挨拶に向き、役割を説明しているということで、相談件数も比較的多かった。

研修会については、口蹄疫の影響で、開催が中止になったり、計画に遅れが出ている例があった。

#### 2. センターの PR 方法について

延岡よりケアマネジャーにアンケートをした結果、センターの認知度は約6割、センターの役割の認知度は約3割であったと報告があった。各センターとも認知度を上げる工夫をしているが、地元で定例に開催される「在宅ケア研究会」に毎回出席して名前を覚えてもらっている、地域のケアマネジャー協議会に働きかける、施設のソーシャルワーカーの伝手でPRしているなどの報告があった。また、業務として個別対応が

限られる中、センターの役割をアピールしていくことが難しいとの声が上がられた。

研修会のPRについては、施設に郵送で案内をするというところがほとんどであるが、施設のメールアドレスを集めて、メールでの案内に移行していると報告したセンターもあった。

#### 3. 地域リハビリテーション研修会について

毎年1回開催しているが、平成23年2月26日(土)に宮崎市において開催することが決定した。

内容は、リハビリテーション従事者だけでなく医師にも参加していただきたいということで、検討の結果、新しいリハビリテーションの技術である「磁気刺激治療法」についての研修会とすることになった。講師については担当理事に一任された。

#### 出席者 -

地域リハビリテーション広域支援センター

県央 - 木村、友永、都城北諸 - 関屋、

県北 - 古瀬、関谷、日向入郷 - 井上、荒瀬、

西都児湯 - 中田、県南 - 渡辺、西諸 - 渡部

保健所

中央 - 二川、都城 - 阿波野、延岡 - 片平、

日向 - 森木、高鍋 - 池袋、日南 - 武田、

小林 - 向原、後藤、宮崎市 - 根井

県寝たきり予防推進本部(県健康増進課)

瀬戸口主幹、上原主任

県寝たきり予防対策支援センター(県医師会)

石川常任理事、小川課長、久永課長補佐

## 日医 FAX ニュースから

### 窓口負担軽減し初期医療の充実を 原中会長

原中勝征会長は11月4日、就任後、半年が経過したことを受けて、メディアファクスの取材に応じた。引き上げの機運が高まっている消費税については「上げる時には、医療に回ってくるかどうか分からないので、きちんとした内容を(政府から)聞いて、賛成するのか反対するのかを考えなければならない」と慎重な姿勢を示した。ただ「国民負担を多くしなければサービスが少なくなることについて、日医からも説明しなくてはならない」と述べ、社会保障の充実には一定の負担が伴うことを国民に説明する必要があるとした。その上で、患者の窓口負担の軽減は不可欠と指摘。受診機会を増やして初期医療の充実を図る必要があるとした。

原中会長は、消費税の引き上げなどの負担増について「決して国民をいじめることではない」とも述べ、窓口負担の軽減を提案。窓口負担を引き下げ、軽症での受診を推進し、がんの早期発見など初期医療を充実することで、結果的に医療費の増加に歯止めを掛けることにもつながるとの認識を示した。窓口負担割合については「(現行の)負担3割はあり得ない」と述べた。

さらに「われわれは自分たちの利益のためには決して主張しない」と断言。「国民皆保険制度を維持するためには、負担が必要だということを国民自身が知らないといけない。政治家が言えないなら、日医が悪者になっても言うのが国民のためだ」と述べた。

原中執行部が当初から掲げる「闘う医師会」の意味についても「政治家とだけではない。世論との闘いもある」とし、「最終目的は国民が幸せになること。そこはずれていない」と強調した。

(平成 22年 11月 9日)

### 事業税の特例存続を

#### 民主税制 PT、政府税調に要望

民主党の税制改正プロジェクトチームの中野寛成座長は11月9日の政府税制調査会に、存続を求める優遇税制や見直しが必要な租税特別措置(租特)を列記した重点要望を提出した。

存続を求める優遇税制には医療機関の事業税の特例措置の存続も盛り込まれた。また政府に見直しを求める租特として、療養病床の「特別償却制度」などを挙げた。

中野座長は「取りまとめをぜひ真剣に受け止めていただきたい」と述べ、要望を201年度税制改正大綱に反映するよう求めた。五十嵐文彦財務副大臣は「国民の声を代表する国会議員の声として真摯に受け止め政府税調で検討を進めたい」と答えた。

(平成 22年 11月 12日)

### 医療保険制度の改革案を公表

#### 日医

原中勝征会長は、11月11日の定例記者会見において、「日本医師会 国民の安心を約束する医療保険制度」をとりまとめたことを報告した。

原中会長は、「医療が高齢者を切り捨てるようなことがあってはならないとの信念の下で、高齢者をどのような制度で守れば良いのか、現執行部ではゼロベースで考え直すことにした」と述べ、そのため、日医の歴史をひもとき、歴史に徹底的に学び、「若者から高齢者まで、公平に安心して医療を受けることができるようにするためには、全国ひとつの医療保険制度にすべきではないか」との結論に至ったと説明した。そして、これは、「高齢者を手厚く守る」というこれまでの日医の提案と、いささかの齟齬もないとした。

また、「日医は、地域保険としての一元的運用を目指す民主党案を容認した」との一部日刊紙の報道について、「日医の目指すところは全国一本化であり、その途中段階で、地域保険と職域保

険への組み替えを提案しているが、それがゴールではない」とその違いを述べた。そして、現執行部発足直後から改革案の検討に着手し、政府の方針や現行高齢者医療制度の見直しの方向性に左右されることなく、別の次元で、真摯な議論を進めてきたことを説明した。

さらに、現在、グランドデザイン全体の見直しを進めていることにも言及し、次の段階では、医師不足・医師偏在をいかに解消するかという提案も示したいとの考えを述べた。

つづいて、中川俊男副会長が詳細について説明を行った。

中川副会長は、本提言は(1)日本医師会のこれまでの医療保険制度改革についての提案(2)厚生労働省のこれまでの医療制度改革案(3)医療保険制度改革にむけた論点整理(4)日本医師会が考えるあるべき医療保険制度で構成されているとして概略を説明した後に「日本医師会が考えるあるべき医療保険制度」について解説した。

まず、すべての国民が、公平な負担の下で、同じ医療を受けられることが公的医療保険制度の根幹であるとして、それは年齢や、地域や、所得の違いによる格差のない制度であるとの基本理念を示したうえで、その実現に向けて、公的医療保険制度の「全国一本化」を提案しているとした。

また、全国一本化までの4つの段階「第1段階 高齢者医療制度も含めた医療保険制度全体の方向性の検討」「第2段階 地域保険の創設と職域保険の段階的統合」「第3段階 職域保険の完全統合」「第4段階 全国一本化」を示し、2025年以降を目標に、都道府県ごとの地域保険および職域保険(協会けんぽ)を全国一本化する構想を表した。

そして、統合一本化に向けた課題および一本化後の課題として(1)国民健康保険と被用者保険の所得捕捉(2)国民健康保険における保険料賦課方式の統一(3)保険者による予防・健康増進機能の維持(4)医療費抑制、管理医療の阻止、

(5)事業主負担のあり方 を挙げ、いずれも、基本理念の実現のために避けて通れない課題であり、解決にむけて全力を尽くすとした。

中川副会長は、本提言は、日医のこれまでの歴史を踏まえ、現執行部が議論に議論を重ねて取りまとめたものであり、まずは世に問いたいとしたうえで、政府与党を中心に、精力的に理解を求めていく考えを示した。

また、現執行部になって、社会保障などについて徹底的に議論し、見直しをした結果、高齢者の医療制度をどうするかという次元ではなく、全世代の医療制度を一体的にどう改革するかの議論に至ったことを説明。そのうえで「高齢者を保障の理念で手厚く支える」という理念は、これまでの日医の主張と全く変わっていないことをあらためて強調した。(平成22年11月16日)

## 調布市医が公益認定

### 医師会では全国初

東京都は11月12日、調布市医師会(岡本眞郎会長)が公益社団法人として登記したことを公示した。日医によると、公益認定を受けたのは全国の医師会で初めて。国の公益法人制度改革を受け、日医を含む全国の医師会は2013年までに新たな公益社団法人に移行するか、一般社団法人に移行するかを選択を迫られている。

公示の文書によると、公益目的事業は「地域の医療・福祉の質の向上を図り、住民の健康増進に寄与する事業」とした。収益事業は「その他受託事業 休日夜間急患診療所 介護保険事業 相互扶助等事業」の4事業とした。

調布市医では、07年から検討を始め、08年に公益法人改革検討委員会を設置した。同委員会では09年に答申書をまとめ、理事会を経て公益社団法人取得に向けて準備を進めてきた。

嵐裕治担当理事は「将来どういう医師会にしたいかビジョンを持つことで、問題点が出てくる。その問題点をどのようにクリアするか考える中で、一般社団か公益社団かを考えることが大事」と話している。(平成22年11月19日)

## 薬事情報センターだより ( 283 )

## 新薬紹介 ( その 42 )

今回は 9 月に薬価収載された抗てんかん剤イーケプラ錠 250mg・500mg ( 一般名: レベチラセタム ) とがん疼痛治療剤トラマールカプセル 25mg・50mg ( 一般名: ترامドール塩酸塩 ) について紹介いたします。

イーケプラ錠 250mg・500mg ( 一般名: レベチラセタム )

レベチラセタムは、シナプス小胞蛋白 2A ( SV 2A ) に結合することにより抗てんかん作用を發揮する、既存の抗てんかん薬とは異なる作用機序をもつ抗てんかん薬です。また、発作抑制作用には、レベチラセタムと SV 2A の結合の他にも N 型  $Ca^{2+}$  チャネル阻害、細胞内  $Ca^{2+}$  の遊離抑制、GABA 及びグリシン作動性電流に対するアロステリック阻害の抑制及び神経細胞間の過剰な同期化の抑制も関わっていると考えられています。

1999 年に米国、2000 年に欧州にて成人のてんかん患者の部分発作に対する併用療法として承認されました。それ以降、欧米では部分発作だけではなく全般発作に対する併用療法や小児用としても追加承認されました。また、欧州においては、成人てんかん患者の部分発作に対する単剤療法としても承認されています。2010 年 1 月現在では 92 の国や地域で使用されています。本邦においては、2010 年 7 月に「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作( 二次性全般化発作を含む ) に対する抗てんかん薬との併用療法」を効能・効果として承認され、9 月に発売されました。

国内臨床試験 ( プラセボ対照比較試験及び長期継続投与試験 ) における副作用発現症例率は 90.2 % ( 543 例中 490 例 ) でした。主な副作用は、鼻咽頭炎 ( 53.0% )、傾眠 ( 35.5% )、頭痛 ( 19.9% )、浮動性めまい ( 17.5% ) 等でした。重大な副作用としては、皮膚粘膜眼症候群 ( Stevens-Johnson 症候群 )・中毒性表皮壊死症 ( Lyell 症候群 ) ( 頻度不明 )、重篤な血液障害 ( 頻度不明 )、肝不全・肝炎

( 頻度不明 )、膵炎 ( 頻度不明 ) があらわれることがあります。

トラマールカプセル 25mg・50mg ( 一般名: ترامドール塩酸塩 )

トラマドール塩酸塩は、トラマドール及び活性代謝物 M 1 が主に  $\mu$  オピオイド受容体に結合し、オピオイド作動性による上行伝導路の抑制及びノルアドレナリン再取り込み阻害作用、セロトニン再取り込み阻害作用による下行抑制路の活性化により鎮痛作用を示す非麻薬指定の中枢性鎮痛薬です。WHO 方式がん疼痛治療法において、コデインと同様に第 2 段階のオピオイド鎮痛薬で、軽度から中等度の強さの痛みの除痛に用いる薬剤として位置付けられています。

2010 年 2 月現在、世界 100 か国以上の国において各種剤形が販売されています。本邦においては、1977 年に注射剤として、「各種癌及び術後における鎮痛」の効能・効果で承認され、1978 年より発売されています。しかしながら、注射剤の用法・用量は 4 ~ 5 時間毎に筋肉内に注射することとなっており、投与時の患者の負担が大きなものでした。そこで、より利便性が高く、患者負担の少ない経口剤 ( カプセル剤 ) の開発が行われ、2010 年 7 月に「軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛」を効能・効果として承認され、9 月に発売されました。

癌性疼痛を対象として安全性評価対象例 26 例中、副作用は 18 例 ( 67.8% ) に認められました。主な副作用は、便秘 ( 30.0% )、悪心 ( 29.2% )、嘔吐 ( 19.5% )、傾眠 ( 18.7% ) 等でした ( 承認時 )。重大な副作用としては、ショック、アナフィラキシー様症状 ( 頻度不明 )、痙攣 ( 頻度不明 )、依存性 ( 頻度不明 ) があらわれることがあります。

## 参考資料

イーケプラ錠 250mg・500mg、トラマールカプセル 25mg・50mg 各添付文書・

インタビューフォーム

( 宮崎県薬剤師会薬事情報センター

永井 克史 )

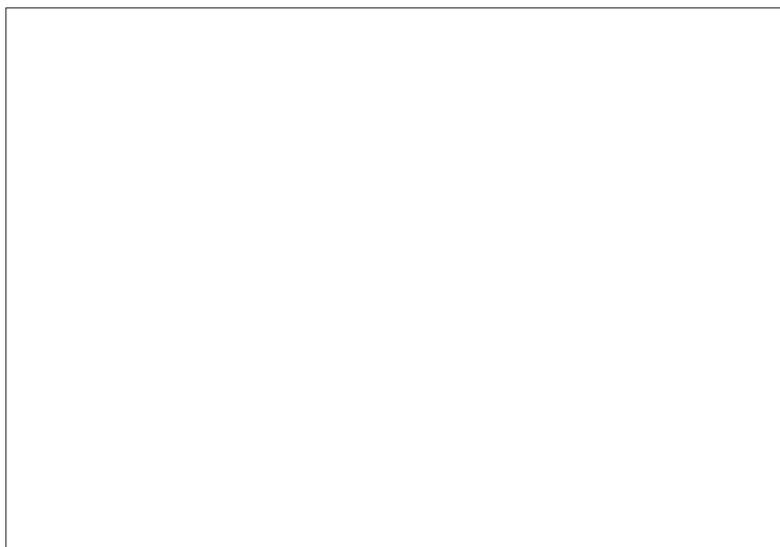
## お知らせ

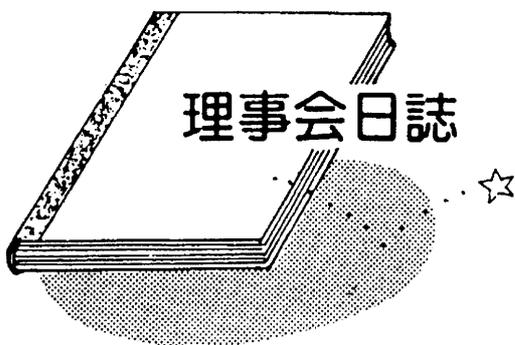
宮崎県ドクターズテニス大会（都城）  
開催のお知らせ

寒冷の候，ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
さて，上記テニス大会を下記のとおり開催することとなりました。  
万障お繰り合わせの上，ご参加くださいますようお願い  
申し上げます。

- |                |   |                                                                             |          |
|----------------|---|-----------------------------------------------------------------------------|----------|
| 1. 日           | 時 | 平成 23年 1月 30日（日曜日）                                                          | 午前 10時開始 |
| 2. 場           | 所 | クラブハウス イワキリ<br>〒 885-0084 宮崎県都城市五十町 2375<br>五十市駅から徒歩 5分<br>TEL 0986-26-3288 |          |
| 3. 参 加 費       |   | ドクター 4,000円<br>その他 2,000円                                                   |          |
| 4. 大 会 内 容     |   | 混合ダブルスなど                                                                    |          |
| 5. 申し込み・問い合わせ先 |   | 都城健康サービスセンター 森重<br>TEL 0986-39-2600                                         |          |

ご家族，従業員の参加も歓迎いたします。  
準備の都合上，1月 24日(月)までにお知らせください。





平成 22年 10月 5 日(火) 第 13回常任理事会

医師会関係

(議決事項)

1. 10/28(木) JA A Z M 本館)社会保険医療担当者(医科)の個別指導の実施について  
役員 1 名の立ち会いが承認された。
2. 11/29(土) 鹿児島)九州医師会連合会平成 22年度各種協議会の開催種目について  
医療保険対策, 地域医療対策, 公益法人制度対策の順で, 希望する開催種目として提出することとなった。
3. 11/11(木) 県医)県議会医療対策特別委員会との意見交換の打診について  
意見交換会を受けることが承認され, 「医師不足の問題」を富田副会長, 「地域医療再生計画」を河野副会長, 「地域医療学講座」を稲倉会長, 「産婦人科の問題」を濱田常任理事, 「小児科の問題」を佐藤常任理事が説明することとなった。
4. 12/4(土) 日医)平成 22年度家族計画・母体保護法指導者講習会の開催について  
濱田常任理事と県産婦人科医会が推薦する医師 1 名の出席が承認された。

(報告事項)

1. 9 月末日現在の会員数について
2. 10/1(金) 宮観ホテル)住吉昭信先生叙勲記念講演会・祝賀会について

3. 9/29(水) 宮崎労働局)労災診療指導委員会について
4. 10/4(月) 県医)「保険診療の手引き」打合せについて
5. 10/2(土) 県医)日医社保指導者講習会復講について
6. 10/3(日) 神戸)認知症サポート医フォローアップ研修について
7. 10/2(土) 北警察署他)県警察医会総会・特別講演会等について
8. 10/1(金) 県庁)県准看護師試験問題調整委員会について
9. 10/4(月) 県庁)東九州地域医療産業拠点構想宮崎県研究会について
10. 10/5(火) 県医)治験審査委員会について
11. 10/1(金) 県医)パソコンセキュリティ研修会について
12. その他  
公益法人化準備委員会について

平成 22年 10月 12日(火) 第 14回常任理事会

医師会関係

(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について  
「医師会将来ビジョン委員会」委員の推薦について  
九州ブロック全体で 2 名の推薦枠。30 歳台, 40 歳台各 1 名との制約もあることから, 候補者を絞り都市医師会長に相談の上, 決定することとなった。
2. 後援・共催名義等使用許可について  
11/5(金)~ 6(土) 宮崎大学他)第 10 回日伊科学技術宮崎国際会議 2010 の後援(名義)について  
後援することが承認された。  
H 23.7/2(木)~ 23(日) 福岡国際センター他)  
「第 1 回アジアメディカルショー」後援名

## 義使用のお願い

後援することが承認された。

3. 11/12(金)～13(土) 鹿児島 九州医師会連合会「第31回常任委員会」「第100回臨時委員総会」及び「九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会」の開催について

常任委員会への提案事項について検討が行われ、支払基金の調査結果を元に、審査の強化に関連する案件を提出することが承認された。

4. 医師法施行規則の一部を改正する省令について(医師届出票の改正)

隔年12月に提出が義務付けられている医師届出票について、今回、専門性に関する資格等の項目が追加されるが、届出を怠ると罰則等もあるため、会員に届出漏れが無いか確認することとなった。

5. 11/16(火) 県医 県福祉保健部・病院局との懇談会について

開催案内とスケジュールについて確認が行われ、県への要望については、郡市医師会に対し照会するとともに、各項目を改めて検討することとなった。

6. 会費減免申請について

減免申請(高齢)1件について承認された。

7. 高次脳機能障害講演会事業の委託契約について

契約を締結することが承認された。

8. 10/26(火) 県庁 平成22年度宮崎県国民保護共同訓練(図上)に係る第1回調整会議について

参加については、古賀常任理事に一任することとなった。

9. 日医会長の諮問に対するご意見等について  
各郡市医師会並びに専門分科医会に照会した上で、意見をまとめることとなった。

## (報告事項)

1. 10/12(火) 支払基金 支払基金幹事会について
2. 10/8(金) 日医 日医医療秘書認定試験委員会について
3. 10/6(火) 県医 公衆衛生・感染症委員会について
4. 10/6(火) 県医 健康スポーツ医学委員会について
5. 10/12(火) 県医 治験審査委員会について
6. 10/12(火) 県医 治験理事会について
7. その他  
公益法人化準備委員会について  
シンボルマーク商標登録の進捗状況について

平成 22年 10月 19日(火) 第 15回常任理事会

## 医師会関係

## (議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について  
第28回日本医学会総会登録推進委員就任のお願いについて  
稲倉会長が就任することが承認された。
2. 後援・共催名義等使用許可について  
11/20(土)～21(日) 日本興亜ビル宮崎 第5回九州理学療法学会ご後援について  
後援することが承認された。  
11/20(土) オルブライトホール 平成22年度日本肝臓学会九州地区市民公開講座ならびに11/27(土) 延岡・12/3(金) 都城 肝がん撲滅運動市民公開講座への後援のお願いについて  
後援することが承認された。  
12/4(土) JA A Z M 本館 平成22年度一般社団法人宮崎県介護支援専門員協会研究大会の名義後援について  
後援することが承認された。

3 . リーフレット「幼稚園のおはなし」の配布について

産婦人科医療機関と小児科医療機関に対し、近日開催される県医師会園医部会研修会のアナウンスと合わせ周知に協力することとなった。

4 . 業務委託について

平成 22年度広域インフルエンザ予防接種事業の委託契約について

誤解を招く表現を一部訂正の上、契約を締結することが承認された。

平成 22年度宮崎県主治医研修の委託契約について

契約を締結することが承認された。

5 . 12/12日(日本医師会館)平成 22年度日本医師会医療事故防止研修会について

濱田常任理事の出席が承認された。

(報告事項)

1 . 国保の審査について

2 . 10/14日(高鍋)社会保険医療担当者(医科)の個別指導について

3 . 10/18日(県医)臨時五役会について

4 . 10/15日(日医)日医乳幼児保健検討委員会について

5 . 10/13日(宮崎市郡医師会館)宮崎県中部地域産業保健運営協議会について

6 . 10/16日(宮観ホテル)県医介護支援専門員連絡協議会総会研修会について

7 . 10/15日(県医)健康教育委員会について

8 . 10/14日(県医)広報委員会について

平成 22年 10月 26日(火) 第 1回全理事会

医師会関係

(議決事項)

1 . 11/1日(日南)社会保険医療担当者(医科)の個別指導の実施に係る立会について

役員 1名の立ち合いが承認された。

2 . 後援・共催名義等使用許可について

H 23.1 /29日~ 2 /13日(みやざきアートセンター)高木兼寛展開催に際しご後援方お願ひについて

後援することが承認された。

3 . 平成 22年度メンタルヘルス相談事業に係る委託医療機関の推薦について

現場の意向を確認した上で、県精神科医会に推薦を依頼することが承認された。

4 . 11/12日(鹿児島)九州医師会連合会並びに九州医師会医学会関連行事について

関連行事の確認と行程等について最終確認が行われた。

5 . 業務委託について

平成 22年度緩和ケア研修事業に係る委託業務契約の締結について

契約を締結することが承認された。

6 . H 23.4 /8日(東京)第 28回日本医学会総会について

役員に対して出席確認を行うことが承認された。

7 . H 23.2 /12日~ 2 /13日(日医)平成 22年度日本医師会医療情報システム協議会の開催について

荒木常任理事の出席が承認された。

8 . 11・12月の行事予定について

11月の追加と12月の行事について確認が行われた。

(報告事項)

1 . 週間報告について

2 . 10/24日(日医)九州ブロック日医代議員連絡会議について

3 . 10/24日(日医)日医臨時代議員会について

4 . 10/26日(都城市総合文化ホール)県精神保健福祉大会について

5 . 10/22日(県庁)県薬事審議会について

- 6 . 10/26(火) 九州厚生局宮崎事務所 )九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
- 7 . 10/25(月) 県医 )公益法人化検討委員会について
- 8 . 10/26(火) 宮崎刑務所 )刑務所視察委員会について
- 9 . 10/20(水) 日医 )日医病院委員会について
10. 10/16(土) 県医 )産業医研修会( 実地 )について
11. 10/2(休) 県医 )県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会について
12. 10/23(土) 宮観ホテル )県医病院部会・医療法人部会合同研修会について
13. 10/15(金) 福岡 )九州ブロック臨床研修了後進路説明会実行委員会について
14. 10/23(土) 県医 )県訪問看護ステーション連絡協議会総会・研修会について
15. 10/26(火) 県庁 )県国民保護共同訓練( 図上 )に係る調整会議について
16. 10/2(休) 日医 )日医ホームページ検討WGについて
17. 10/2(休) 日医 )日医広報委員会について
18. 10/25(月) 県医 )広報委員会について
19. 10/11(月) 福岡 )日本プライマリ・ケア連合会九州支部代表世話人会について
- 医師国保組合関係  
( 報告事項 )
- 1 . 10/8(金) 埼玉 )全国医師国保組合連合会全体協議会について
- 医師協同組合・エムエムエスシー関係  
( 報告事項 )
- 1 . 10/26(火) 県医 )医協運営委員会について  
( 協議事項 )
- 1 . 組合員加入承認について  
2 名の新規加入が承認された。
- 医師連盟関係  
( 議決事項 )
- 1 . 10/30(土) 県医 )各都市医師連盟委員長会について  
県知事選挙への対応等について協議を行うため開催することが承認された。
- 2 . 11/10(水) 県経済団体協議会要望事項について  
県政に望む最重点要望項目として「 医師確保対策」、「 医師会立看護師・准看護師養成校への財政支援」、「 社会保険診療報酬に対する事業税非課税の特例措置の存続」の 3つを提出することが承認された。

## お知らせ 年末・年始の休館について

県医師会館( 医師会, 医師国保, 医師協同組合・エムエムエスシー, 病院厚生年金基金 )は年末・年始休業のため, 下記のとおり休館いたしますのでお知らせします。

記

期 間 平成 22年 12月 29日(水) ~ 平成 23年 1月 3日(月)

緊急連絡先 総務課長 0 9 0 -9 5 7 2 -1 3 8 5

事務局次長 0 8 0 -1 7 0 5 -5 8 3 0

事務局長 0 8 0 -5 2 6 6 -7 4 5 3

## 県 医 の 動 き

( 11 月 )

1	日医設立記念医学大会(日医) 「保険診療の手引き」打合会(河野副会長他) 県内科医会誌編集委員会	17	全体課長会(事務局) 産業医研修会 新医師臨床研修制度に関する懇談(会長他) 県産婦人科医会献金委員会
2	第 16 回常任理事会(会長他)	18	日医ホームページ検討WG(日医) 荒木常任理事) 東国原英夫政経講演会(事務局) 「保険診療の手引き」打合会(河野副会長他)
3	(文化の日) 県医親善ゴルフ大会(ハイビスカスゴルフクラブ) (会長他)	19	地域密着型サービス評価機関全国会議(大阪) (事務局) 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会(日医) (上田理事) 生活習慣病検診従事者研修会(会長他) 医学賞選考委員会(河野副会長他)
4	医師国保理事会(秦理事長他) 県インフルエンザ学術講演会(佐藤常任理事)	20	全国学校保健・学校医大会(群馬) 会長他) 生活習慣病検診従事者研修会(古賀常任理事) 県プライマリ・ケア研究会世話人会 (河野副会長他) 県プライマリ・ケア研究会総会・講演会 (河野副会長他)
6	生活習慣病検診従事者研修会(吉田常任理事) 県外科医会秋期講演会(済陽理事) 全国医師協同組合連合会通常総会(金沢) 会長他) 県作業療法士会法人格取得記念式典(河野副会長)	24	奥様医業経営塾(医協事務局) 労災診療指導委員会(河野副会長他) 県医諸会計監査(会長他) 広報委員会(荒木常任理事他)
8	経済団体協議会(会長)	25	社会保険医療担当者(医科)の個別指導 (立元常任理事) 県議会医療対策特別委員会との意見交換会 (会長他) 産業医研修会 県産婦人科医会常任理事会(濱田常任理事)
9	第 17 回常任理事会(会長他)	26	日医医療秘書認定試験委員会(日医) 富田副会長) 医療安全対策セミナー(会長他)
10	奥様医業経営塾(医協事務局) 産業医研修会 支払基金幹事会(会長) 麻しん予防接種推進会議(佐藤常任理事) 宮崎銀行との懇談会(会長他)	27	産業医研修会(大塚常任理事他) 九州学校検診協議会専門委員会(福岡) (佐藤常任理事) 九州各県学校保健担当理事者会(福岡) (佐藤常任理事)
11	社会保険医療担当者(医科)の個別指導 (立元常任理事) 県議会医療対策特別委員会との意見交換会 (会長他) 産業医研修会 県産婦人科医会常任理事会(濱田常任理事)	28	自民党衆議院議員一区候補予定者選考委員会 (河野副会長)
12	九医連常任委員会(鹿児島) 会長) 九医連臨時委員総会(鹿児島) 会長他)	29	外部評価審査小委員会(事務局) 高次脳機能障害講演会(会長他) 県医地域医療連携協議会(会長他)
13	九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会 (鹿児島) 会長他) 九州医師会総会・医学会(鹿児島) 会長他) 糖尿病週間県民公開講座(長倉理事) 世界糖尿病デー in 宮崎 2016(長倉理事)	30	宮大大学院医学獣医学総合研究科設置記念式典・ 祝賀会(会長) 治験審査委員会(富田副会長他) 第 18 回常任理事会(会長他)
14	九医学分科会・記念行事(鹿児島) 会長他) 全国有床診療所連絡協議会九州ブロック役員会 (鹿児島) 河野副会長)		
15	宮大経営協議会・学長選考会議(会長) 広報委員会(富田副会長他)		
16	地域リハビリテーション広域支援センター連絡 会議(石川常任理事) 医協運営委員会(会長他) 第 12 回全理事会(会長他) 県福祉保健部・病院局と県医師会との懇談会 (会長他)		

## 追 悼 の こ と ば

都城市北諸県郡医師会

稲 津 舜 介 先生

(大正 1年 3月 31日生 89歳)

弔 辞

本日ここに、故稲津舜介先生のご葬儀が執り行われるにあたり、先生のご霊前に、都城市北諸県郡医師会を代表し、心より謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生は、元来お元気で、ご病気をされるまで、地域医療一筋にご活躍をされてこられました。

先生が昨年 2月に体調を崩され、療養をされているとお聞き致しておりましたので、私ども会員一同、一日も早いご回復を念じておりました。

先生は、去る 10月 23日、午前 8時 15分にご家族の手厚い看護にもかかわらず、89歳の生涯を閉じ、帰らぬ人となりました。突然の訃報を受け、にわかには信じられず、驚く他ありませんでした。先生急逝の知らせは、程無く全会員に伝えられ、会員一同、深い悲しみに包まれているところでございます。ましてや、ご遺族の皆様方のご悲嘆は、如何ばかりかと心中をお察し申し上げます。私ども医師会員一同、心より哀悼の意を表する次第でございます。

先生は、大正 1年 3月 31日、8人兄弟の三男として鹿児島県薩摩郡宮之城町でお生まれになられ、医師であられたお父様の大きな影響を受けられ、医学の道を志し、昭和 18年 4月に日本大学医学部予科に入学されました。しかし、その当時は戦時中であり、入学した一年後の昭和 19年 4月に鹿児島西部歩兵 1部隊に入隊、同年

9月には、陸軍通信学校へ入学、昭和 20年 4月同校卒業と同時に、見習い士官に任ぜられ九州方面軍通信隊に配属、同年 8月少尉に任官と兵役に就かれています。終戦後、本科に進学され、昭和 24年 3月に日本大学医学部をご卒業されています。その後、県立宮崎病院にて実地修練、昭和 25年に医師免許を取得、医師としてのスタートをきられました。昭和 26年 2月に鹿児島県川内保健所勤務、同年 9月に鹿児島医科大学医学部産婦人科学教室に入局され研鑽を積みまれました。昭和 28年には、庄内町立病院、翌 29年には、新設されたばかりの三股町立病院の初代産婦人科医として勤務されています。

昭和 37年 4月に、花繰町に稲津医院を開業され、当時は周りに医療機関が少なく、多くの患者さんが昼夜を問わず訪れ、そんな中、先生はいつも献身的に患者さんを診察されていたと伺っております。体調を崩される今日まで、47年余りの永きにわたり、地域住民の医療、保健、福祉の向上に多大な貢献をされてこられました。

先生は、私ども医師会活動におきましても、多忙な診療の傍ら、都城市北諸県郡医師会監事を昭和 59年 4月から平成 4年 3月までの 8年間、宮崎県医師会の監事を平成 14年 4月から平成 20年 3月までの 6年間務められています。更に看護師の養成にも積極的に取組まれ、昭和 5年から平成 20年までの 26年間、都城看護専門学校の講師を務められ、看護師の育成等、多大なる貢献をされています。

都城市立祝吉小学校の学校医も昭和 39年 4月から平成 2年 3月までの 45年の永きにわたり務められ、児童生徒の保健衛生並びに健康管理に精力的に取組まれました。これらのご功績に対し、学校保健功労として平成 3年に都城市教育長、平成 9年には、宮崎県教育長表彰を受けら

れました。平成 18年には、文部科学大臣表彰も授与されておられます。

先生は、お子様が 3人おられますが、ご長男の東彦先生が医師として既にご活躍中であり、先生もさぞかしご安心のことと思います。

先生は、診療を離れると書物を読まれることが多く、特に歴史ものを好まれたと伺っております。自らも執筆され、1999年に「星空に雨を祈る」、2000年に「紅に燃えて候う 古代賛歌」などを出版されています。

先生は、既に幽明境を異にされたとはいえ、先生がこれまで、地域医療の発展にご尽力され

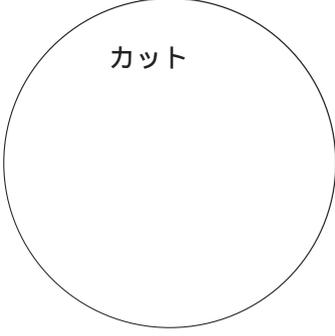
た数々のご功績を、私共医師会員は、決して忘れることなく、先生に学び先生の偉業を継いで、地域住民の医療、保健、福祉の発展に会員一丸となり、努力することをお誓い申し上げます。

最後に、先生がこれまで地域医療に捧げられましたご功績に対し、深い尊敬と感謝の念を表し、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げ、お別れの言葉と致します。

平成 22年 10月 28日

都城市北諸県郡医師会

会長 夏 田 康 則



カット

## 読者の広場

日州医事 11月号へいただいたご意見・ご感想を紹介します。

表紙写真「晩秋の山雨」(渡邊命平先生)について

表紙のカラー写真もよかった。

最近の表紙はきれいで魅力的だと思います。

私の本「なぜ宮崎に医師はいないのか」(清山知憲先生)について

本屋をのぞいてみます。

日州医事全般に対するご意見・質問

全て面白く、良かったと思っています。毎回ゆっくりと、じっくりと読ませていただいています。介護保険意見書も参考になりました。講演会案内もいつも重宝しています。

個人的なことですが、エッセイがもう少し多く掲載され、もっと気軽に投稿できるといいと思います。

各分野から全体的に網羅され掲載されているので抽出することは難しい。各県の県医師会誌も参考にしてみられたらどうでしょうか？外国のトピックス的なものも面白いかと思っております。

私も以前県医の広報担当委員をしていました。当日は午後7時より1時間、または2時間と時間の経つのも忘れ熱心に話し合ったことが思い出されます。当時からしますと内容その他急速な進歩を感じます。ご苦労様です。今後とも一層の努力をお願いします。

「私の本」が近年少ないように思いますが、出版された先生はぜひ紹介されるように奨励してください。

(広報委員会より)

書物の紹介コーナーには、会員が自分の執筆した本を紹介する「私の本」と、会員がお気に入りの本を紹介する「私が推薦する本」があります。いずれもジャンルは問いませんので、ぜひご紹介をお願いいたします。

「医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会」のコーナーに掲載されていない講演会等がありますが、何か理由があるのでしょうか？

(広報委員会より)

このコーナーには日医生涯教育講座認可の申請がなされた講演会等が掲載されます。認可を希望する場合には県医師会に申請書を提出してください。開催前月の15日までに申請されますと次号の日州医事に掲載されます。申請に関するお問い合わせは学術広報課までお願いします。

日州医事では、会員の皆さんからのご意見を募集しています。

(宮崎県医師会 FAX 0985 - 27 - 6550)

## ドクターバンク情報

( 無料職業紹介所 )

平成 22年 1月 15日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク( 求人・求職等の情報提供 )を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申込み、お問合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しております。ご覧ください。

### 1. 求職者登録数 7人

#### 1) 男性医師求職登録数 6人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤・非常勤別
内科	3	常勤, 非常勤
整形外科	1	常勤
老健施設	1	常勤
麻酔科	1	非常勤

#### 2) 女性医師求職登録数 1人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤・非常勤別
老健施設	1	非常勤

### 2. 斡旋成立件数 30人

#### 1) 男性医師 22人 2) 女性医師 8人

### 3. 求人登録 76件 271人 (人)

募集診療科目	求人数	常勤・非常勤別
内科	82	常勤( 61 ), 非常勤( 21 )
循環器科	14	常勤( 14 )
呼吸器科	6	常勤( 6 )
外科	23	常勤( 20 ), 非常勤( 3 )
整形外科	20	常勤( 16 ), 非常勤( 4 )
産婦人科	2	常勤( 2 )
眼科	9	常勤( 7 ), 非常勤( 2 )
耳鼻咽喉科	1	常勤( 1 )
泌尿器科	2	常勤( 2 )
皮膚科	1	常勤( 1 )
放射線科	8	常勤( 7 ), 非常勤( 1 )
リハビリテーション科	3	常勤( 1 ), 非常勤( 2 )
脳神経外科	12	常勤( 8 ), 非常勤( 4 )
神経内科	3	常勤( 3 )
神経科	2	常勤( 2 )
精神科	20	常勤( 16 ), 非常勤( 4 )
麻酔科	10	常勤( 6 ), 非常勤( 4 )
小児科	5	常勤( 4 ), 非常勤( 1 )
血液内科	3	常勤( 3 )
人工透析	2	常勤( 2 )
健診	2	常勤( 2 )
検診	2	非常勤( 2 )
小児循環器科	1	常勤( 1 )
消化器内科	12	常勤( 12 )
救命救急科	2	常勤( 2 )
その他	24	常勤( 24 )

## 求 人 登 録 者 ( 公 開 )

求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
150005	医)わか会ピア・メンタル ささき病院	宮崎市	精	1	非常勤
160011	赤十字血液センター	宮崎市	検診	2	非常勤
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	脳,整,放,麻,内	8	常勤・非常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮崎市	精,内	2	常勤
160031	医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	呼,神,内,眼,耳,総診,呼外, 循,臨病	9	常勤
160033	医)如月会 若草病院	宮崎市	精,内	2	常勤
170040	医)いなほ会 日高医院	宮崎市	内	1	常勤
170046	医)社団善仁会 市民の森病院	宮崎市	内,消内,内,泌,糖,内,呼,放, リウマチ	10	常勤・非常勤
170048	医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内,眼	2	常勤
170052	医)春光会	宮崎市	外,内	3	常勤
180061	医)あいクリニック	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内,神,内,整	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内	3	常勤
190089	医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮崎市	脳,内,麻	4	常勤・非常勤
190094	医)耕和会 迫田病院	宮崎市	整,内	3	常勤
190095	医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	2	常勤・非常勤
190096	医)晴緑会 宮崎医療センター病院	宮崎市	消化,外,総内,麻,放,精,整, 循	13	常勤・非常勤
200103	社)八日会 藤元中央病院健診センター	宮崎市	健診	1	常勤
200104	医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	内,外,救急,化療,リハ	6	常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	内,外,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮崎市	内,リハ	5	常勤・非常勤
220121	医)社団 星井眼科医院	宮崎市	眼	1	常勤
220125	医)仁和会 竹内病院	宮崎市	外	1	常勤
160008	医)正立会 黒松病院	都城市	内,泌	2	常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内,老内	2	常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	内,総診,救急,整,脳,外	6	常勤
170042	医)豊栄会 豊栄クリニック	都城市	内	1	常勤
170056	医)社団アブラムクラブ ベテスタクリニック	都城市	循,内,呼,神,脳,小循	8	常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内,外,整	3	常勤
180064	国立病院機構都城病院	都城市	消内,血内,循,呼,内,脳,産 婦,	9	常勤
180069	社)八日会 大悟病院	三股町	精,内	2	常勤
180081	医)恵心会 永田病院	都城市	精	1	常勤
190084	医)一誠会 都城新生病院	都城市	精	2	常勤・非常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
190092	都城市郡医師会病院	都 城 市	内 呼	4	常勤
190093	社)八日会 藤元早鈴病院検診センター	都 城 市	内	2	常勤・非常勤
200106	医)宏仁会 海老原内科	都 城 市	内 外	4	常勤・非常勤
210108	特医)敏和会 みまた病院	三 股 町	内 消 内 循 皮 整 婦 小 , 呼 放	10	常勤
210113	医)邦楽会 河村医院	都 城 市	内	1	常勤
210114	社)八日会 藤元病院	都 城 市	精	2	常勤
160034	特医)健寿会 黒木病院	延 岡 市	外 消 内 緩 ケ ア	4	常勤
160036	医)久康会 平田東九州病院	延 岡 市	内 脳 循 小 以 八 眼 婦 神 内 老 施	9	常勤
190086	早田病院	延 岡 市	内	1	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延 岡 市	産 婦 , 内	2	常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消 内	3	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内 小 外 整	8	常勤・非常勤
210112	医)嘉祥会 岡村病院	延 岡 市	内	3	常勤・非常勤
160028	日向市立東郷病院	日 向 市	内	1	常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日 向 市	外 内 整 透	7	常勤
180068	医)洋承会 今給黎医院	日 向 市	循	1	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内 麻	4	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内 放 外 小	4	常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	整 内 麻 眼 健 診	5	常勤
170058	国立病院機構宮崎病院	川 南 町	呼 循 消 内 外	8	常勤
180077	医)聖山会 川南病院	川 南 町	眼 麻 脳	10	常勤・非常勤
150004	西都医師会病院	西 都 市	内 外	4	常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内 外 整	6	常勤・非常勤
150002	医)慶明会 おび中央病院	日 南 市	内	1	常勤
150003	医)同仁会 谷口病院	日 南 市	精	2	常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日 南 市	内 消 内 神 内	3	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串 間 市	精 内	6	常勤・非常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内 神 内 整 外	4	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	腎 内	1	常勤
220124	医)月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	4	常勤・非常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内	2	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	1	常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	内 循 呼 血 内 健 診 放 小	11	常勤
180076	医)友愛会 園田病院	小 林 市	外 内 整	4	常勤
190090	特医)浩然会 内村病院	小 林 市	精	2	常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整 内	4	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国保病院	五 ヶ 瀬 町	整	1	常勤
180070	高千穂町国保病院	高 千 穂 町	内 泌 透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日 之 影 町	内 整	2	非常勤

## 病医院施設の譲渡・賃貸

譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 22 年 11 月 15 日現在

1 . 譲渡物件	<p>宮崎市大字瓜生野 1645-3( 矢野整形外科跡 )</p> <p>土地 : 562.6坪 : 1,859.89㎡</p> <p>建物 : 鉄筋コンクリート造り 3 階建( 面積 1,047.89㎡ : 316.98坪 )</p>
	<p>宮崎市本郷南方 5465-6( 診療所跡 )</p> <p>土地 1704.26㎡( 516.4坪 )</p> <p>建物 : 重量鉄骨造 2 階建( 平成 3 年築 )</p> <p>1 階 420.53㎡( 127.4坪 ), 2 階 340.79㎡( 103.3坪 )</p> <p>駐車場 : 25台分</p>
2 . 賃貸物件	<p>日南市園田 2 -2 -5( 診療所跡 )</p> <p>建物 : 鉄骨コンクリート造 2 階建</p> <p>1 階 147.17㎡ , 2 階 54.68㎡</p> <p>日南市油津で町の中心部です。</p>
	<p>宮崎市曾師町 209-3( 診療所跡 )</p> <p>建物 : 鉄筋コンクリート造 2 階建</p> <p>1 階 183.35㎡ , 2 階 166.69㎡</p> <p>駐車場 : 10台分</p>
	<p>日向市上町 9 番 3 号( 医心内科跡 )</p> <p>建物 : 鉄筋コンクリート造 2 階建</p> <p>延床面積 : 312.08㎡</p> <p>駐車場 : 20台駐車可</p> <p>日向駅近くに位置し , バス , 電車の便も良好です。</p>

お問合せ先

### ドクターバンク無料職業紹介所

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地( 宮崎県医師協同組合 )

0985-23-9100( 代 )・FAX 0985-23-9179 E-mail: isikyou@m iyazakimed.or.jp

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 22年 11月 30日現在

12		月		
1	水	13 00 国保組合被保険者全国大会 14 30 (日医)日医病院委員会	14 火	18 00 医協運営委員会 18 30 第 13回全理事会 19 00 役職員懇談会
2	木	18 30 産業医研修会 19 00 県外科医会全理事会 19 00 広報委員会	15 水	9 10 全体課長会(事務局) 19 00 延岡市医師会忘年会
3	金	13 30 県健康づくり協会創立記念式典 14 00 (日医)女性医師等相談窓口事業推進 連絡協議会	16 木	13 30 (日医)都道府県医師会医事紛争 担当理事連絡協議会 15 00 (日医)日医ホームページ検討WG 19 00 医療保険委員会 19 00 都城市北諸県郡医師会忘年会
4	土	13 00 (日医)家族計画・母体保護法指導者 講習会 13 00 産業医研修会 15 00 日医生涯教育協力講座セミナー「感 染症の予防と治療」	17 金	14 00 (日医)日医乳幼児保健検討委員会 15 00 県医療審議会 18 30 指導医養成のためのワークショ ップ実施担当者事前打合会議 19 00 広報委員会
5	日	11 00 TPP交渉への参加阻止とみやぎの 食と暮らしを守る緊急県民集会 14 00 県民健康セミナー	18 土	9 00 指導医養成のためのワークショップ
6	月	14 00 宮大医学部地域医療学講座運営・支援 協議会	19 日	8 00 指導医養成のためのワークショップ
7	火	18 00 治験審査委員会 19 00 第 19回常任理事会	20 月	
8	水	10 30 奥様医業経営塾(医協事務局) 16 00 支払基金幹事会	21 火	16 30 宮崎政経懇話会特別講演会 19 00 第 20回常任理事会
9	木	(県知事選挙告示日) 13 30 刑務所視察委員会 19 00 西都市・西児湯医師会忘年会 19 00 全国有診総会実行委員会	22 水	10 30 奥様医業経営塾(医協事務局) 14 00 みやぎ愛の献血運動推進県民大会 15 00 労災診療指導委員会
10	金	16 00 県立病院事業評価委員会	23 木	(天皇誕生日)
11	土	14 15 産業医研修会 18 30 県産婦人科医会全理事会 18 30 宮崎市郡医師会年末懇談会	24 金	18 00 九州地方社会保険医療協議会宮崎 部会
12	日	10 00 (日医)医療事故防止研修会	25 土	
13	月	19 00 生活習慣病検診従事者研修会	26 日	(県知事選挙投票日) 13 00 新生児蘇生法講習会
			27 月	
			28 火	15 00 仕事納め式
			29 水	(年末休業)
			30 木	(年末休業)
			31 金	(年末休業)

都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 22年 11月 30日現在

1		月				
1	土	(年始休業)		14 00 産業医研修会		
2	日	(年始休業)	18	15 00 (日医) 都道府県医師会長協議会	火	
3	月	(年始休業)		17 30 (日医) 日医役員・都道府県医師会長 新年会		
				19 00 第22回常任理事会		
4	火	13 00 新年賀詞交歓会 15 00 仕事始め式	19	9 10 全体課長会(事務局)	水	
5	水		20	14 00 (日医) 日医広報委員会	木	
6	木		21		金	
7	金	18 30 病院部会・医療法人部会合同理事会・ 新年会	22	14 00 かかりつけ医認知症対応力向上研修 15 00 県産婦人科医会・県産科婦人科 学会研修会・冬期総会 16 00 プライマリ・ケア研修会	土	国 保 審 査
8	土	14 00 かかりつけ医認知症対応力向上研 修会 17 30 県医連執行委員会 19 00 三師会新春懇談会		23		
9	日		24	18 00 医協運営委員会 18 30 第14回全理事会 19 20 各都市医師会長協議会	火	社 保 審 査
10	月			19 00 広報委員会		
11	火	18 00 治験審査委員会 19 00 第2回常任理事会	26	10 30 奥様医業経営塾(医協事務局) 14 00 産業医研修会 15 00 労災診療指導委員会	水	
12	水	10 30 奥様医業経営塾(医協事務局) 16 00 支払基金幹事会				
13	木	19 30 県産婦人科医会常任理事会	27	18 00 九州地方社会保険医療協議会宮崎 部会	木	
14	金		28	15 00 (日医) 日医地域医療対策委員会	金	
15	土	14 30 産業医研修会	29	14 00 九医連医療保険対策協議会 16 00 九医連常任委員会 16 00 九医連各種協議会	土	
16	日					
17	月	19 00 県内科医会学術委員会 19 15 広報委員会	30		日	
			31	19 00 県内科医会誌編集委員会	月	

都合により、変更になることがあります。

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位・カリキュラムコード（CC）。当日，参加証を交付。  
 がん検診；各種がん検診登録・指定・更新による研修会。波線；専門研修会以外の産業医研修会。  
 アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名 称	日時・場所・会費	演 題	そ の 他 = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会(生涯研修 の更新研修会2単 位) (2単位) (CC 7.69.70)	12月2日(木) 18 30~ 20 30 都城市北諸県郡医師 会館	(1)労働衛生関係法規と関係通達の改正 メンタルヘルス対策における職場復帰支 援 - 職場復帰支援の手引きについて - 宮崎産業保健推進センター副所長 堀添 貞茂	共催 宮崎産業保健推進センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
都城市北諸県郡医 師会内科医会学術 講演会 (1.5単位) (CC 23.76.82)	12月3日(金) 18 45~ 20 30 ホテル中山荘	なぜ低血糖は心血管リスクを増やすのか？ - ある24時間血糖測定 症例からの検証 - 自治医科大学循環器内科・宮崎大学 医学部地域医療学講座助教 矢野 裕一朗 多様な病態を改善するベストアプローチ とは - 経口血糖降下剤の使い分け - 順天堂大学スポーツロジ センター長 河盛 隆造	主催 都城市北諸県郡医 師会内科医会 ☎ 0986-22-0711 共催 武田薬品工業(株)
宮崎大腸肛門疾患 研究会 がん検診(大腸) (1.5単位) (CC 11.13.54)	12月3日(金) 19 00~ 20 30 県医師会館	大腸がんの予防と最新治療 - 特に下部直腸癌について - 高野病院長 山田 一隆	共催 宮崎大腸肛門疾患研究会 武田薬品工業(株) ☎ 0985-24-6763 天藤製薬(株)

名 称	日時・場所・会費	演 題	そ の 他 = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会(生涯研修 の専門研修会 3.5 単 位) (3.5 単位) (CC 1.11.69.70)	12月4日(土) 13:00~16:30 県医師会館	(4)メンタルヘルス対策 職場復帰支援対策 宮崎若久病院長 倉山 茂樹 長時間労働者に対する医師による面接 指導 福元医院院長 福元 廣次 メンタルヘルス対策について ハートピア細見クリニック心理相談 室長 渡邊 尚孝	共催 宮崎産業保健推進センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
日医生涯教育協力 講座セミナー「感染 症の予防と治療」 (3 単位) (CC 11.13.18. 19.28.46)	12月4日(土) 15:00~18:00 県医師会館(TV 会 議:都城・延岡・日 向・児湯・西都・南 那珂・西諸・西臼杵)	全国および宮崎における感受性報告 宮崎大学医学部内科学講座 免疫感染病態学講師 長友 安弘 肺炎ガイドラインと新しい知見 産業医科大学医学部呼吸器内科学 教授 迎 寛 宮崎県における新型インフルエンザ対策 宮崎県福祉保健部健康増進課課長 和田 陽市 インフルエンザの診断、治療、予防 - 抗インフルエンザ薬の展望 - 東北大学加齢医学研究所抗感染症薬 開発研究部門教授 渡辺 彰	共催 日本医師会 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118 第一三共(株)
第 140 回宮崎県眼科 医会講習会 (3 単位) (CC 36)	12月4日(土) 16:30~19:00 ワールドコンベン ションセンターサ ミット 3,000円 (開業医・勤務医) 2,000円 (公的医療機関勤務医)	宮崎県個別指導の対応について 星井眼科医院院長 出水 誠二 AMD 治療の現状・課題 - 解決に向けて - 京都大学眼科学講師 大谷 篤史 ブドウ膜炎診療アップデート 山口大学眼科学教授 園田 康平	主催 宮崎県眼科医会 ☎ 0985-28-1015

名 称	日時・場所・会費	演 題	そ の 他 = 連絡先
第 4 回はまゆう整形外科セミナー ( 1 単位 ) ( c c 1 .72)	12月 4 日(土) 17 30~ 18 30 宮崎観光ホテル 1,000円	側弯症診療の実際 - 正しい理解と適切な 対応に向けて - 宮崎大学医学部整形外科講師 黒木 浩史 若き整形外科医へ贈る言葉 - 守 破 離 - 谷口整形外科院長 谷口 博信	主催 はまゆう整形外科セ ミナー ( 連絡先 ) 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986
宮崎県内科医会学 術講演会 ( 1.5単位 ) ( c c 13.23.76)	12月 8 日(水) 18 45~ 20 50 宮崎観光ホテル	2 型糖尿病の経口血糖降下薬治療におけ る最近の話題 - 症例から学ぶ DPP -4 阻害薬 - 久留米大学医学部内分泌代謝内科 准教授 田尻 祐司	共催 宮崎県内科医会 小野薬品工業(株) ☎ 0985-50-0173 後援 宮崎県医師会
第 7 回都城イメー ジカンファランス ( 1.5単位 ) ( c c 2 .11.73)	12月 9 日(木) 19 00~ 20 30 都城ロイヤルホテル	腹部超音波検査の現状 藤元早鈴病院消化器科部長 駒田 直人	主催 都城イメージカン ファランス ☎ 0986-22-0711 共催 第一三共(株)
第 16 回宮崎県泌尿 器科医会 ( 2 単位 ) ( c c 9 .11.15.82)	12月 9 日(木) 19 00~ 21 00 宮崎観光ホテル 5,000円	PSA を考える - 「前立腺がん予防」の話題から - 宮崎大学医学部泌尿器科教授 賀本 敏行	主催 宮崎県泌尿器科医会 ☎ 0985-85-2968
第 64 回宮崎県精神 科医会懇話会 ( 1.5単位 ) ( c c 11.13.68)	12月 11 日(土) 17 30~ 19 00 宮崎観光ホテル	自殺対策における医療の可能性と限界 宮崎大学医学部精神医学教授 石田 康	主催 宮崎県精神科医会 ☎ 0982-37-0126 共催 大日本住友製薬(株)

名 称	日時・場所・会費	演 題	そ の 他 = 連絡先
宮崎市郡外科医会 12月例会 ( 1 単位 ) ( CC 8 .13)	12月 13日(月) 19 10~ 20 10 宮崎観光ホテル	地域医療活性化のために必要な地域医療 学講座の役割について 宮崎大学医学部地域医療学講座教授 長田 直人	主催 宮崎市郡外科医会 ☎ 0985-53-3434
平成 27年度宮崎県 医師会生活習慣病 検診従事者研修会 がん検診(肺・乳・ 胃・大腸) ( 2 単位 ) ( CC 2 .11.12.82)	12月 13日(月) 19 00~ 21 10 県医師会館( TV 会 議 : 都城・延岡・日 向・児湯・西都・南 那珂・西諸・西臼杵)	肺癌診療の現状と今後の治療戦略につ いて 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学助教 柳 重久 乳癌をいかに早期に発見するか プレストピアなんば病院放射線科 中原 浩 胃癌に対する外科診療の現況 宮崎大学医学部腫瘍機能制御外科学 助教 日高 秀樹 大腸がんの最近の知見 同大学医学部内科学講座 消化器血液学助教 山本 章二郎	主催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118 宮崎県
西諸医師会・西諸 内科医会合同学術 講演会 ( 2 単位 ) ( CC 63.73.76.82)	12月 16日(木) 19 00~ 21 00 ガーデンベルズ小林	2 型糖尿病における DPP 4 阻害剤の有用 性とポジショニング - 当科での使用経験 , 及び CGM データの 解析から - 産業医科大学医学部第一内科学講師 岡田 洋右	主催 西諸医師会 ☎ 0984-23-2113 西諸内科医会 共催 M SD (株)
西臼杵郡学術講演 会 ( 1.5 単位 ) ( CC 82)	12月 16日(木) 19 00~ 20 30 ホテル高千穂	当院におけるエカードの臨床効果( 仮 ) 高千穂町国民健康保険病院内科医長 和氣 中庸 日常診療における消化性潰瘍予防のポイ ント 宮崎大学医学部内科学講座 消化器血液学助教 山本 章二郎	共催 西臼杵郡医師会 延岡市西臼杵郡薬剤 師会西臼杵部会 武田薬品工業(株) ( 連絡先 ) 佐藤医院 ☎ 0982-73-2010

名 称	日時・場所・会費	演 題	そ の 他 = 連絡先
第 3 回宮崎グラン ドケースカンファ レンス ( 2 単位 ) ( CC 2 .13.15)	12月 17日(金) 18 30~ 20 30 M R T m icc	バイタルサインの話 群星沖縄研修センター長 宮城 征四郎	主催 宮崎臨床研修研究会 共催 大日本住友製薬(株) ( 連絡先 ) 清山知憲 ☎ 090-4067-3306
第 6 回宮崎整形外 科懇話会 ( 1 単位 ) ( CC 61.63)	12月 18日(土) 17 00~ 18 00 県医師会館	カレントアプローチ：上肢絞扼性神経 障害 信州大学医学部整形外科教授 加藤 博之	主催 宮崎整形外科懇話会 共催 大日本住友製薬(株) ( 連絡先 ) 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986
宮崎県医師会産業 医研修会(基礎研修 の後期研修会 生涯 研修の専門研修会 4 単位 ) ( 4 単位 ) ( CC 1 .11)	平成 23年 1 月 15日(土) 14 30~ 18 30 県医師会館	(6)作業環境管理 労働衛生保護具について 産業医科大学産業保健学部長 保利 一  (7)作業管理 作業管理について(じん肺・粉塵) 同大学同学部教授 嵐谷 奎一	主催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
第 6 回宮崎大学 眼科研究会 ( 3 単位 ) ( CC 36)	1 月 15日(土) 15 00~ 19 00 宮崎観光ホテル 2,000円	涙の秘密とドライアイ 東京医療センター感覚器センター 部長 山田 昌和 病理像からみた血栓症の発生機序 宮崎大学医学部構造機能病態学教授 浅田 祐士郎	主催 宮崎大学医学部眼 科学教室 ☎ 0985-85-2806
宮崎県耳鼻咽喉科 懇話会 ( 2 単位 ) ( CC 37.39.46.79)	1 月 15日(土) 17 30~ 20 00 宮崎観光ホテル 500円	アレルギー性鼻炎・花粉症治療のエビデ ンス 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科 教授 大久保 公裕	共催 宮崎県耳鼻咽喉科懇話会 協和発酵キリン(株) ☎ 0985-22-8801 後援 日耳鼻宮崎県地方部会 宮崎県耳鼻咽喉科医会

名 称	日時・場所・会費	演 題	そ の 他 = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会(生涯研修 の <u>実地研修会</u> 2 単 位) ( 2 単位 ) ( CC 1 .11.12)	1 月 18 日(火) 14 00~ 16 00 旭化成マイクロシス テム(株)延岡事業所	(7)職場巡視と討論 職場巡視の進め方と作業保健活動 旭化成(株)延岡支社健康管理センター 所長 小山 一郎	共催 宮崎産業保健推進センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
宮崎県医師会産業 医研修会(生涯研修 の専門研修会 2 単 位) ( 2 単位 ) ( CC 11.12.69.70)	1 月 26 日(水) 14 00~ 16 00 宮崎産業保健推進 センター	(3)健康管理 勤労者のアルコール飲用と自殺との関連 野崎病院長 後藤 勇	共催 宮崎産業保健推進センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
宮崎県医師会産業 医研修会(生涯研修 の専門研修会 2 単 位) ( 2 単位 ) ( CC 11.12.69.70)	2 月 2 日(水) 14 00~ 16 00 宮崎産業保健推進 センター	(4)メンタルヘルス対策 職場のメンタルヘルス対応レシピ PART 2 宮崎若久病院長 倉山 茂樹	共催 宮崎産業保健推進センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
宮崎県医師会産業 医研修会(生涯研修 の <u>実地研修会</u> 2 単 位) ( 2 単位 ) ( CC 1 .11.12)	2 月 4 日(金) 18 30~ 20 30 県医師会館	(2)じん肺のエックス線検査 石綿関連疾患診断技術研修 富山労災病院アスベスト疾患 センター長 水橋 啓一 岡山大学病院放射線科助教 加藤 勝也	共催 宮崎産業保健推進センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118
第 4 回宮崎県スポー ツ学会 ( 1 単位 ) ( CC 57.61)	2 月 5 日(土) 15 00~ 19 00 JA A Z M ホール 1,000円	下腿・足部のスポーツ傷害 - その原因と予防対策 - びわこ成蹊スポーツ大学教授 大久保 衛	共催 宮崎県スポーツ学会 ファイザー(株) ( 連絡先 ) 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986

## お知らせ

## 平成 22年度日本医師会認定医療秘書養成制度 卒業生求職のお願い！

宮崎県医師会では 18年度より、日本医師会認定医療秘書の養成を下記 3 教育機関に委託しており、来年 3 月に 4 回目の卒業生が誕生いたします。全日制の 2 年課程で医学基礎教科・秘書専門教科として看護師養成課程に近いレベルの教育をされており、専門的な医療事務に必要な知識、最新の情報処理技能などの資格を備えるとともに、「誠実さ」「思いやり」など、医療機関の今日的な使命を自覚し、それにふさわしい対応ができる人間形成にも力を入れています。

是非、日医認定医療秘書の学生の方々を貴医療機関にご採用いただきますようご案内いたします。

求職希望、またお問い合わせ等につきましては、直接下記の加盟養成校担当者へご連絡いただきますよう、よろしく願いいたします。

宮崎学園短期大学 (宮崎市)	宮崎医療管理専門学校 (宮崎市)	都城コアカレッジ (都城市)
就職希望者 16名 (女 16名)	就職希望者 17名 (男 2 名, 女 15名)	就職希望者 14名 (男 2 名, 女 12名)
連絡先: 0985-85-0146 宮崎市清武町加納 1415 担当: 佐土原 敦 谷口 和子	連絡先: 0985-86-2271 宮崎市田野町甲 1556-1 担当: 福元 進	連絡先: 0986-38-4811 都城市吉尾町 77-8 担当: 谷上 智子 中山さおり 原口桂一郎

## 診療メモ

「プライバシー」をめぐる医療現場の混乱  
- 「倫理コンサルテーション」の視点から -宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野 ^{いた}板 ^い井 ^{こういちろう}孝彦郎

はじめに

私事で恐縮ですが、宮崎に着任した 2002 年から「倫理コンサルテーション」というものを行ってきました。宮崎県下のみならず全国の医療機関から、年間 120 件ほどの倫理相談を受けています。相談内容は多岐に渡りますが、その中でも大きい比率を占めているのは、患者さんの「プライバシー」に関するものです。こうした状況は明らかに、2005 年 4 月に個人情報保護法が全面施行されると共に起こったと言えます。

例えば、こういう相談が寄せられたことがありました。宮崎に限らず、地方では医師不足が深刻ですが、僻地と呼ばれるところでは無医村も珍しくないため、患者さんは市中の病院に入院することになります。ご家族はお見舞いに来るにしても、あまりにも遠方のため頻回に来ることはできません。ご家族は入院中の患者さんが心配ですから、その容態が知りたいと思い、電話で問い合わせて来られます。ところが、病院側は「お電話ではお応えできません」という返答をせざるをえず、そのためご家族は、決して安くはない交通費を支払い、離島や僻地から丸一日かけて来院しなければならないのです。それでも「個人情報保護」のためには、「電話では答えてはいけない」のでしょうか、と。

「個人情報保護法」をどのように理解するべきか？

厚生労働省はこうした苦情を受け止めてか、「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」に関する Q & A (事

例集)〔以下、「Q & A (事例集)」〕という文書を公表しています。この文書はその名が示す通り、現場で直面しうる具体的な事例に即して Q & A 形式で記載されているので、その点ではわかりやすいと言えます。では、この「Q & A (事例集)」を踏まえた場合、先述の「相談事例」は、どのように考えればよいのでしょうか。「Q & A (事例集)」から、【各論】「Q 5 . 個人データの第三者提供」「Q 5 - 17」を引用してみましょう。

Q 5 - 17 大規模災害や事故等で、意識不明で身元の確認できない多数の患者が複数の医療機関に分散して搬送されている場合に、患者の家族又は関係者と称する人から、患者が搬送されているかという電話での問い合わせがありました。相手が家族等であるか十分に確認できないのですが、患者の存否情報を回答してもよいのでしょうか。

A 5 - 17 患者が意識不明であれば、本人の同意を得ることは困難な場合に該当します。また、個人情報保護法第 23 条第 1 項第 2 号の「人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合」の「人」には、患者本人だけでなく、第三者である患者の家族や職場の人等も含まれます。このため、このような場合は、第三者提供の例外に該当し、本人の同意を得ずに存否情報等を回答することができ得ると考えられるので、災害の規模等を勘案して、本人の安否を家族等の関係者に迅速に伝えることによる本人や家族等

の安心や生命、身体又は財産の保護等に資するような情報提供を行うべきと考えます。なお、「本人の同意を得ることが困難な場合」については、本人が意識不明である場合等のほか、医療機関としての通常の体制と比較して、非常に多数の傷病者が一時に搬送され、家族等からの問い合わせに迅速に対応するためには、本人の同意を得るための作業を行うことが著しく不合理と考えられる場合も含まれるものと考えます。

結論から言えば「家族からの電話による問い合わせには答えても良い」ということになります。ただし、ここでは「大規模災害時」という状況設定がなされています。このところ、地震や津波、あるいは竜巻などの大規模災害が「日常化」してきている状況を鑑みると、この点について各医療機関は、しっかりと病院職員に周知しておく必要があるでしょう。

「家族からの電話での問い合わせ」に応えるためには

では、先ほどの離島や僻地からの問い合わせの事例ですが、この点については「Q & A(事例集)」にも直接の記載はありません。しかし、警察や消防、あるいは弁護士等からの照会に関する記述(ここでは紙幅の関係上、詳細は省略させていただきます)も参考にしながら敷衍して「解釈」するならば、以下のような対応をすることによって、電話による問い合わせに応じることができると言えます。

1. 問題は、電話で家族からの問い合わせがあった際に(それに応じてくれても良いという患者本人の同意があったとしても)、「家族であるかどうか電話では確認できない」というところにある(つまり、「家族です」と詐称して、患者の情報を盗み出そうとするのを予防する必要がある)のですから、「電話口にいるのが家族である」という担保をどう取れば良いか、と

いうことになります。

2. したがって、一度は、ご家族に来院して頂く必要がありますが、その際に「原則としてお電話でご家族から入院中の患者さんの容態についてのお問い合わせがあっても、お応えすることはできません。それは、電話口におられる方が本当にご家族であるかどうかを、こちらからでは確認できないからです」と説明します。

3. その上で、「ですが、ご家族の方が病院にお電話をお掛けになる際は、必ずご自宅ないしはご自身の携帯電話からお掛けください。予め、ご自宅もしくは携帯のお電話番号をこちらにお伝え頂いていければ、一旦、電話は切らせて頂き、あらためて、こちらからその番号にお電話をかけさせていただきます。そこでお出になられたことをもってご家族である、と判断をさせていただきます。もし万が一、お出になられた方がご家族でないことがありました場合には、申し訳ありませんが、こちらでは確認させて頂くことはできませんのでご了承ください」と、リスクについてもご説明し同意を取得する、というインフォームド・コンセントを行う、という手順になります。

宮崎の僻地や、あるいは鹿児島、長崎の離島から、入院中の患者さんの容態を聞くためだけに、ご家族が丸一日かけて病院まで往復するのは、それこそ「著しく不合理」と言えます。したがって「法律ですからできません」という杓子定規で空疎な返答ではなく、どうすれば患者や家族のニーズに応えながら、尚且つ法律を遵守することができるか、という視点でもって「法律」や「ガイドライン」を現場の実情に即して解釈し、具体的なアドバイスを行うこと、これが「倫理コンサルテーション」の大切な役割だと考えています。

## お知らせ

県医師会から各都市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。詳細につきましては、会員専用ホームページをご覧ください。所属都市医師会へお問い合わせください。

送付日	文 書 名
10月 26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加水分解コムギ末を含有する医薬部外品・化粧品の使用上の注意事項等について</li> <li>・「使用上の注意」の改訂について</li> <li>・「『指定介護老人福祉施設の人員 設備及び運営に関する基準について』等の一部改正について」等の送付について</li> </ul>
10月 29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団法人日本医療機能評価機構 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 第3回集計報告の周知について</li> <li>・医療事故情報収集等事業第2回報告書の送付について</li> </ul>
11月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨による被災者に係る被保険者証等の提示等について及び大雨による被災者の公費負担医療の取扱いについて</li> <li>・移植希望者(レシピエント)選択基準の一部改正について</li> <li>・「病原微生物検出情報」、「病原微生物検出情報(普及版)」の送付について</li> </ul>
11月 2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチン接種事業における予診票の記載について</li> <li>・ゴナールエフ皮下注ペン 300に係る留意事項の一部改正について</li> <li>・材料価格基準の一部改正等について</li> <li>・医療機器の保険適用について</li> <li>・平成 22年度 医師の届出及び調査の協力依頼について</li> </ul>
11月 4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 16回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会の開催について</li> </ul>
11月 5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用上の注意」の改訂について</li> <li>・「医療機器の保険適用について」の一部訂正について</li> <li>・ディートを含有する医薬品及び医薬部外品の安全性に関する定期報告について</li> <li>・平成 22年度日本医師会医療情報システム協議会の開催について</li> </ul>
11月 10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被爆者健康手帳の無効について</li> </ul>
11月 11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援事業実施要綱の改正に係る介護予防事業のQ &amp; A集(改訂版)の送付について</li> <li>・インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究に対する協力について</li> <li>・都道府県におけるワクチン接種緊急促進基金条例(仮称)の制定に係る事務の実施に関する資料について</li> </ul>
11月 12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島県奄美市等における局地的大雨による被災に関する診療報酬の請求等の取扱い等について</li> </ul>

送付日	文 書 名
11月 15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬事法第四十九条第一項の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医薬品の一部改正に伴う留意点について</li> <li>・ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針の改正等について</li> <li>・平成 22年度母子保健講習会の開催について</li> <li>・妊婦健康診査におけるヒト白血病ウイルス -1 型 (HTLV -1) 抗体検査の実施について</li> </ul>
11月 16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺炎球菌ワクチン誤接種防止対策について(「ニューモバックス NP」と「プレベナー水性懸濁皮下注」)</li> <li>・鹿児島県奄美市等における局地的大雨による被災者に係る公費負担医療の請求等の取扱い等について(石綿健康被害)</li> <li>・病院の耐震改修等状況調査について</li> <li>・A型ボツリヌス毒素製剤の使用にあたっての留意事項について</li> </ul>
11月 19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻しんの検査診断について</li> <li>・医療機関等におけるインフルエンザ対策の徹底について</li> </ul>
11月 22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品・医療機器等安全性情報第 274号の速報について</li> <li>・医療機器の保険適用について</li> <li>・材料価格基準の一部改正等について</li> <li>・公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて</li> <li>・治療用装具の療養費支給基準について</li> <li>・「医療機器の保険適用について」の一部改正について</li> <li>・子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金(補正予算案)に係る基金交付額の考え方について</li> <li>・医療機関等に対するインフルエンザ対策の徹底について</li> </ul>
11月 24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人福祉医療機構による医療貸付事業融資制度利用希望者に対する個別融資相談会の開催について</li> <li>・「日本医師会 国民の安心を約束する医療保険制度」送付について</li> </ul>

あなたできますか？(解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b	d	a	e	a	c	c, d	c	b, d	d, e

## 平成 22年 総目次 ( 725~ 736)

## 【表 紙】

夜明け	宮 崎 市	竹 尾 康 男	1 月号
残雪待春	都 城 市	吉 山 政 敏	2 月号
柳川ひな祭り さげもん祭り	日 向 市	康 田 明 照	3 月号
若山牧水のうた	宮 崎 市	弓 削 三重子	4 月号
ポピーの押しくらべ	小 林 市	桑 原 淑 子	5 月号
曇り日の桜島	宮 崎 市	中 島 知 徳	6 月号
「パパ 撮って！」	宮 崎 市	谷 口 豊	7 月号
河童(蜂の巣岩)	都 城 市	淵 脇 和 男	8 月号
モロッコの少女	えびの市	齋 藤 キ又工	9 月号
記憶の旋律	西 都 市	安 藤 宣	10月号
晩秋の山雨	日 向 市	渡 邊 命 平	11月号
つれづれに	延 岡 市	長 沼 弘三郎	12月号
【会長のページ】	会 長	稲 倉 正 孝	

年頭のご挨拶			1 月号
平成 22年度税制改正について			2 月号
厚生労働省の「チーム医療の推進に関する検討会」の報告書を読んで			3 月号
今回の新型インフルエンザの流行を顧みて			4 月号
平成 22年度宮崎県医師会事業計画			5 月号
出来高病棟に入院中の患者が他専門医療機関を受診した場合の診療費について			6 月号
平成の宰相			7 月号
医師の職業倫理と医療広告			8 月号
厚生労働省の「政策コンテスト」からみた指導監査			9 月号
日本医師会と日本医師連盟			10月号
レセプト交換による支払基金支部間審査差異の調査結果について			11月号
宮崎県の医療事情			12月号

## 【日州医談】

医療崩壊	理 事	千々岩 一 男	2 月号
宮崎県医師国民健康保険組合の現状とこれから	理 事	矢 野 裕 士	2 月号
宮崎県医師会互助会解散の経緯	県医師会互助会長	稲 倉 正 孝	3 月号
	互助会担当理事	大 塚 直 純	
22年度診療報酬改定について	副 会 長	河 野 雅 行	5 月号
混合診療は N O	副 会 長	富 田 雄 二	5 月号
療養病床の役割	常任理事	立 元 祐 保	6 月号
病院と診療所の役割について	副 会 長	富 田 雄 二	7 月号
日本の予防接種の現状と問題点	常任理事	佐 藤 雄 一	8 月号
公益法人化への取組み	常任理事	立 元 祐 保	9 月号
新型インフルエンザについて	常任理事	吉 田 建 世	9 月号
特養入居者に係る医療行為について	常任理事	立 元 祐 保	10月号
地域産業保健センター事業について	常任理事	大 塚 直 純	10月号
特養等入居者にかかる医療行為について(その 2 )	常任理事	立 元 祐 保	11月号

医療事故調査委員会と無過失補償制度	常任理事	濱 田 政 雄	11月号
消防法改正に伴う傷病者の搬送及び受け入れの実施基準について	常任理事	古 賀 和 美	12月号
<b>【 挨 拶 】</b>			
年頭所感	日本医師会長	唐 澤 祥 人	1 月号
年頭所感	県医師会顧問	竹 内 三 郎	1 月号
年頭所感	宮崎市郡医師会長	中 村 典 生	1 月号
年頭所感	都城市北諸県郡医師会長	夏 田 康 則	1 月号
年頭所感	延岡市医師会長	岡 村 公 子	1 月号
年頭所感	日向市東臼杵郡医師会長	甲 斐 文 明	1 月号
年頭所感	児湯医師会長	永 友 和 之	1 月号
年頭所感	西都市・西児湯医師会長	相 澤 潔	1 月号
年頭所感	南那珂医師会長	山 元 敏 嗣	1 月号
年頭所感	西諸医師会長	槇 健 一 郎	1 月号
年頭所感	西臼杵郡医師会長	佐 藤 元 二 郎	1 月号
年頭所感	宮崎大学医学部医師会長	高 崎 眞 弓	1 月号
年頭所感	内科医会長	栗 林 忠 信	1 月号
年頭所感	小児科医会長	佐 藤 雄 一	1 月号
年頭所感	外科医会長	田 中 俊 正	1 月号
年頭所感	整形外科医会長	田 島 直 也	1 月号
年頭所感	皮膚科医会長	成 田 博 実	1 月号
年頭所感	泌尿器科医会長	中 山 健	1 月号
年頭所感	産婦人科医会長	濱 田 政 雄	1 月号
年頭所感	眼科医会長	原 田 一 道	1 月号
年頭所感	耳鼻咽喉科医会長	菊 池 清 文	1 月号
年頭所感	精神科医会長	吉 田 建 世	1 月号
年頭所感	放射線科医会長	田 村 正 三	1 月号
年頭所感	東洋医会長	井 上 博 水	1 月号
年頭所感	透析医会長	藤 元 昭 一	1 月号
年頭のご挨拶	県 知 事	東国原 英 夫	1 月号
年頭のご挨拶	衆議院議員( 1 区 )	川 村 秀 三 郎	1 月号
年頭のご挨拶	衆議院議員( 2 区 )	江 藤 拓	1 月号
年頭のご挨拶	衆議院議員( 3 区 )	古 川 禎 久	1 月号
年頭のご挨拶	衆議院議員( 九州ブロック )	道 休 誠 一 郎	1 月号
年頭のご挨拶	参議院議員	松 下 新 平	1 月号
年頭のご挨拶	参議院議員	外 山 斎	1 月号
<b>【宮崎大学医学部教授就任挨拶】</b>			
地域医療学講座	教 授	長 田 直 人	11月号
<b>【随想・随筆】</b>			
同世代 第2の人生へ	宮 崎 市	谷 口 二 郎	3 月号
倉木麻衣のカウントダウンコンサートにて	宮 崎 市	山 村 善 教	3 月号
庭のピンクバナナ	西 都 市	友 成 久 雄	4 月号
かつて地方の医師は文化の指導者であった	宮 崎 市	大 西 雄 二	4 月号
心の陰	宮 崎 市	貴 島 テル子	5 月号
スター気分	宮 崎 市	貴 島 テル子	6 月号

思いやりの言葉かけを	宮 崎 市	谷 口 二 郎	10月号
50周年・50年ぶりのことども	西 都 市	友 成 久 雄	12月号
<b>【寄稿】</b>			
県立高校で新型インフルエンザ・ワクチン接種が可能となった経緯	宮 崎 市	田 中 宏 幸	3月号
介護保険の主治医意見書の記載についての私見とお願い	宮 崎 市	川 崎 涉一郎	11月号
「医療用漢方製剤の薬価削除反対運動」協力のお礼	宮 崎 市	川 越 宏 文	12月号
<b>【新春随想・俳壇・歌壇】</b>			
階段降りの健康法	宮 崎 市	立 山 浩 道	1月号
もうすぐ60	日 南 市	小 玉 徳 信	1月号
体のギアチェンジ	都 城 市	吉 山 賢 一	1月号
愚かなりし 我が心	延 岡 市	宝珠山 弘	1月号
静と動なる趣味	宮 崎 市	石 川 直 人	1月号
奇人氣まぐれきりきり舞い	宮 崎 市	山 村 善 教	1月号
気になる存在	清 武 町	恒 吉 勇 男	1月号
「千の風になって」に思う	清 武 町	佛 坂 正 幸	1月号
エマオのキリスト	高 鍋 町	坂 田 師 通	1月号
胃カメラ狂奏曲	宮 崎 市	谷 口 二 郎	1月号
追憶長崎原爆	延 岡 市	藤 本 孝 一	1月号
投げも投げたり，打ちも打ったり	日 南 市	井 上 康	1月号
子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)について	清 武 町	黒 田 嘉 紀	1月号
新春によせて	清 武 町	小 池 弘 幸	1月号
私の釣り歴	宮 崎 市	古 賀 和 美	1月号
新春雑感	宮 崎 市	市 来 能 成	1月号
宮崎市街地の古写真	高 鍋 町	小 川 泰 洋	1月号
ノンアルコール系の新年会	三 股 町	小 牧 文 雄	1月号
還暦からのワークライフバランス	宮 崎 市	細 見 潤	1月号
虎が我が家に幸運を！	宮 崎 市	小 川 次 男	1月号
新春に思うこと	宮 崎 市	松 浦 宏 司	1月号
新型インフルエンザ騒動を考える	宮 崎 市	高 村 一 志	1月号
寅年に思うこと	宮 崎 市	増 田 好 治	2月号
郁子(むべ)	宮 崎 市	徳 田 吉 郎	2月号
昔の旅の回想	高千穂町	後 藤 幸 一	2月号
人生八十年	宮 崎 市	木 佐 貫 靖 夫	2月号
新春随想	清 武 町	迫 田 隅 男	2月号
還暦を考える	小 林 市	小 原 健 一	2月号
私の人生とバイクライフ	都 城 市	隅 清 克	2月号
ファジーな人間	宮 崎 市	中 島 知 徳	2月号
脳内神経伝達物質と神経回路にだまされて	宮 崎 市	前 田 資 雄	2月号
たとえドクハラと誇られようと...	延 岡 市	米 田 敬 三	2月号
雑感	西 都 市	上 山 征 史 郎	2月号
医師不足の解決はカルテの標準化，担当医時間交代制である	日 南 市	河 野 清 秀	2月号

日々の楽しみ	都 城 市	釘 宮 博 志	2 月号
新春随想	清 武 町	賀 本 敏 行	2 月号
18歳か 20歳か?	串 間 市	中 島 昌 文	2 月号
新春の誓い	宮 崎 市	丸 山 英 晴	2 月号
リセット,そして新たな十年を	小 林 市	矢 野 裕 士	2 月号
新春随想	日 向 市	青 柳 淳 太 郎	2 月号
本日から休診(遁辞)	延 岡 市	長 沼 弘 三 郎	2 月号
昨今の宮崎釣り紀行	宮 崎 市	前 野 正 和	2 月号
専門医制度	延 岡 市	押 領 司 篤 茂	2 月号
【はまゆう随筆・短歌・俳句】			
楽に逝くには	日 向 市	井ノ口 裕	7 月号
美味しい食物の共通点	宮 崎 市	谷 口 二 郎	7 月号
そろそろ	宮 崎 市	山 村 善 教	7 月号
解剖学と整理学	延 岡 市	宮 田 純 一	7 月号
再生医療と私の思い	宮 崎 市	王 丸 鴻 一	7 月号
母は来ました今日も来た	延 岡 市	宝 珠 山 弘	7 月号
ホテル	宮 崎 市	富 田 雅 樹	7 月号
恩師を思う	日 南 市	大 瀧 幸 哉	7 月号
卒後五十年同級会	延 岡 市	藤 本 孝 一	7 月号
忘れてほしくない病気“ A T L ”	宮 崎 市	出 盛 允 啓	7 月号
車椅子での旅行	日 向 市	鮫 島 哲 也	7 月号
心ばえ	宮 崎 市	竹 尾 康 男	7 月号
“メメント・モリ(memento mori)”	宮 崎 市	南 嶋 洋 一	7 月号
海外ドラマのトリビア	宮 崎 市	玉 利 裕 一	8 月号
ウイスキーがお好きでしょ	宮 崎 市	井 上 雅 文	8 月号
Time flies	宮 崎 市	川 野 啓 一 郎	8 月号
クリニカル・クラークシップ	宮 崎 市	弘 野 修 一	8 月号
笑いは身を助く	都 城 市	釘 宮 博 志	8 月号
Heatseeker 狂想曲	宮 崎 市	後 藤 崇	8 月号
麻雀	宮 崎 市	田 尻 明 彦	8 月号
暮雲	延 岡 市	長 沼 弘 三 郎	8 月号
寝台列車	宮 崎 市	細 川 和 義	8 月号
子ども手当で予防接種?	宮 崎 市	高 村 一 志	8 月号
犬を飼うならダルメシアン	高 鍋 町	坂 田 師 通	9 月号
ムクドリ営巣	宮 崎 市	成 田 博 実	9 月号
紙オムツに思うこと	宮 崎 市	糸 数 智 美	9 月号
ブルーベリー	宮 崎 市	恒 吉 勇 男	9 月号
W H O 訪問記	宮 崎 市	神 尊 敏 彦	9 月号
フィンランド症候群	宮 崎 市	渡 邊 克 司	9 月号
父と赤江療養所の思い出	宮 崎 市	林 透	9 月号
温度差	宮 崎 市	甲 斐 真 弘	9 月号
激痛	宮 崎 市	内 田 攻	9 月号
医師不足は「総合医」ではなく、『医師能力発揮環境整備』で応えるべき	日 南 市	河 野 清 秀	9 月号
納得死	三 股 町	三 山 吉 夫	9 月号

## 【エコー・リレー】

宮崎市郡医師会病院整形外科	宮崎市	森 治 樹	1 月号
我が家の洗面台	宮崎市	横 内 哲 博	1 月号
ゴルフに目覚めて	三股町	江 夏 剛	2 月号
新年の目標	宮崎市	関 良 二	2 月号
大好きな映画は何ですか？	清武町	川 野 彰 裕	3 月号
私と高校野球の長い付き合い	宮崎市	黒 木 康 雅	3 月号
春の日に思う	日向市	長 嶺 英 宏	4 月号
独立自尊	清武町	清 山 知 憲	4 月号
ブランド	宮崎市	菊 池 英 維	5 月号
iPad と華氏 45 度	宮崎市	姫 路 大 輔	5 月号
釣り	宮崎市	津 守 伸 一 郎	6 月号
アラフォーになって	都城市	有 川 圭 介	6 月号
Dreams	日南市	峰 松 俊 夫	7 月号
物	宮崎市	野 辺 達 郎	7 月号
Night and Holiday 会員 1225928 番	宮崎市	田 畑 直 人	8 月号
父の遺言	都城市	西 元 久 晴	8 月号
筋我信念	小林市	浅 見 尚 規	9 月号
クリニック電化	延岡市	平 嶋 智 之	9 月号
高校球児たちに感謝	宮崎市	油 屋 順 子	10 月号
デジタルに嫌われてる？！	都城市	二 見 要 介	10 月号
適応障害	小林市	阿 多 京 子	11 月号
ニコ中？	高鍋町	永 友 孝 幸	11 月号
日々雑感	綾 町	玉 置 昇	12 月号
仮装ランナー	宮崎市	森 継 則	12 月号

## 【叙位・叙勲】

瑞宝重光章	宮崎大学医学部医師会	住 吉 昭 信	7 月号
瑞宝中綬章	宮崎大学医学部医師会	渡 邊 克 司	7 月号
旭日双光章	日向市東臼杵郡医師会	甲 斐 文 明	12 月号
瑞宝中綬章	児湯医師会	蓑 田 節 夫	12 月号

## 【表彰・祝賀】

公認スポーツドクター功労者表彰	宮崎市郡医師会	田 島 直 也	2 月号
労働基準行政関係功績者厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	上 田 章	2 月号
労働基準行政関係功績者厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	増 田 好 治	2 月号
産科医療功労者厚生労働大臣表彰	都城市北諸県郡医師会	淵 脇 次 男	3 月号
公衆衛生事業功労者日本公衆衛生協会会長表彰	都城市北諸県郡医師会	小 牧 一 磨	3 月号
公衆衛生事業功労者日本公衆衛生協会会長表彰	日向市東臼杵郡医師会	三 股 俊 夫	3 月号
医療功労者県知事表彰	宮崎市郡医師会	西 村 篤 乃	7 月号
医療功労者県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	寶 亀 玲 一	7 月号
医療功労者県知事表彰	児湯医師会	城 戸 奈 爾	7 月号
医療功労者県知事表彰	西都市・西児湯医師会	留 守 健 一	7 月号
救急医療功労者県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	安 藤 健 一	11 月号
救急医療功労者県知事表彰	延岡市医師会	佐 藤 靖 美	11 月号

救急医療功労者県知事表彰	西都市・西児湯医師会	相澤 潔	11月号
救急医療功労者厚生労働大臣表彰	都城市北諸県郡医師会	有川 憲 蔵	11月号
公衆衛生事業功労者日本公衆衛生協会会長表彰	都城市北諸県郡医師会	武田 信 豊	11月号
公衆衛生事業功労者日本公衆衛生協会会長表彰	南那珂医師会	東 茂 光	11月号
社会保険診療報酬支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	岩村 威 志	12月号
国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	小牧 斎 斎	12月号
国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	島山 俊 夫	12月号
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	小倉 克 正	12月号
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰	延岡市医師会	中村 権 二	12月号
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰	南那珂医師会	山見 文 雄	12月号
【あなたできますか】			各号
【宮崎県感染症発生動向】			各号
【メディアの目】			
データの向こう側	西日本新聞社宮崎総局長	豊福 健一郎	2月号
人生には賞味期限がある	毎日新聞宮崎支局長	大島 透	3月号
病院と診療所の役割分担	日経提言から		
	日本経済新聞社宮崎支局長	稲田 成 行	4月号
被爆して医師になった父	朝日新聞宮崎総局長	神谷 裕 司	5月号
ストレスと闘う	NHK 宮崎放送局放送部長	大村 俊 哉	6月号
豊かな想像力を	共同通信宮崎支局長	上野 敏 彦	7月号
テレビ報道を考えるに...	テレビ宮崎報道制作局報道部長	河野 真	8月号
食わず嫌いはいけません	宮崎日日新聞報道部長兼論説委員	森 耕一郎	9月号
「風吹けば...」	MRT 宮崎放送局常務取締役 報道局長	橋口 義 春	10月号
惜別！東国原知事	南日本新聞宮崎支局長	前田 昭 人	11月号
政府与党の医療改革はいずこ？	読売新聞宮崎支局長	千田 伸 二	12月号
【各郡市医師会だより】(メイン)			
都城市北諸県郡医師会(メイン)			2月号
延岡市医師会(メイン)			3月号
宮崎市郡医師会	会 長	中村 典 生	5月号
都城市北諸県郡医師会	会 長	夏田 康 則	5月号
延岡市医師会	会 長	牧野 剛 緒	6月号
日向市東臼杵郡医師会	会 長	渡邊 康 久	6月号
児湯医師会	会 長	永友 和 之	7月号
西都市・西児湯医師会	会 長	児玉 健 二	7月号
南那珂医師会	会 長	山元 敏 嗣	8月号
西諸医師会	会 長	榎 健一郎	8月号
西臼杵郡医師会	会 長	佐藤 元二郎	9月号
宮崎大学医学部医師会	会 長	池ノ上 克	9月号
【国公立病院だより】			
えびの市立病院	院 長	森藤 秀 美	3月号
宮崎大学医学部附属病院	院 長	池ノ上 克	6月号
都農町国民健康保険病院	院 長	立野 進	7月号
美郷町国民健康保険西郷病院	院 長	東 善 昌	10月号

県立こども療育センター	所 長	柳 園 賜一郎	11月号
<b>【宮崎大学医学部だより】</b>			
感覚運動医学講座眼科学分野	医 局 長	河 野 尚 子	2月号
総合周産期母子医療センター	准 教 授	金 子 政 時	3月号
内科学講座免疫感染病態学分野	医 局 長	長 友 安 弘	4月号
附属病院リハビリテーション部	部 長	帖 佐 悦 男	5月号
	副 部 長	鳥取部 光 司	
病態解析医学講座救急・災害医学分野	准 教 授	伊 達 晴 彦	6月号
附属図書館医学分館	分 館 長	布 井 博 幸	8月号
		寸 田 五 郎	
外科学講座腫瘍機能制御外科学分野	医 局 長	前 原 直 樹	9月号
感染症学講座微生物学分野	教 授	林 哲 也	10月号
感染症学講座寄生虫学分野	教 授	丸 山 治 彦	11月号
機能制御学講座統合生理学分野	教 授	高 宮 考 悟	12月号
<b>【専門分科医会だより】</b>			
整形外科医会	会 長	田 島 直 也	3月号
眼科医会	会 長	柴 田 博	4月号
小児科医会	会 長	佐 藤 雄 一	6月号
産婦人科医会	会 長	濱 田 政 雄	7月号
透析医会	会 長	藤 元 昭 一	8月号
泌尿器科医会	会 長	中 山 健	9月号
耳鼻咽喉科医会	会 長	菊 池 清 文	11月号
放射線科医会	会 長	田 村 正 三	12月号
<b>【部会だより】</b>			
医療法人部会	部 会 長	鮫 島 哲 也	5月号
労災部会	部 会 長	小 牧 一 磨	10月号
<b>【報告(各種委員会)】</b>			
医学会誌編集委員会			2月号
医学賞選考委員会			2月号
学術生涯教育委員会			3月号
医学会誌編集委員会			8月号
予防接種委員会			8月号
学術生涯教育委員会			9月号
医療保険委員会			10月号
介護保険委員会			10月号
第1回公益法人化検討委員会			10月号
救急医療委員会			11月号
公衆衛生・感染症委員会			11月号
健康スポーツ医学委員会			11月号
健康教育委員会			12月号
医学会誌編集委員会			12月号
第2回公益法人化検討委員会			12月号
<b>【報告(諸会議)】</b>			
平成2年度都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会			1月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会			1月号

平成 2年度九州学校検診協議会専門委員会		1月号
平成 2年度全国医師会勤務医部会連絡協議会	理事 上田 章	2月号
平成 2年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会	理事 上田 章	2月号
九州医師会連合会第 308回常任委員会		3月号
第 3 回日本糖尿病対策推進会議総会		3月号
第 150回宮崎県医師会臨時代議員会(概要)		4月号
九州医師会連合会平成 2年度第 2 回各種協議会		4月号
九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期会長合同会議		4月号
九州医師会連合会常任委員・次期日医代議員協議会・九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議		4月号
都道府県医師会産業保健担当理事連絡協議会		4月号
各専門分科医会長会		5月号
九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期会長合同会議		5月号
感染症危機管理対策協議会		5月号
平成 2年度全国医師会医療秘書学院連絡協議会常任委員会・運営委員会		5月号
第 15回宮崎県医師会定例代議員会(概要)		6月号
九州医師会連合会第 309回常任委員会		6月号
保険医療機関の指導計画等打合せ会		7月号
地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議		7月号
宮崎県臨床研修運営協議会		7月号
九州医師会連合会第 310回常任委員会		7月号
九州医師会連合会第 99回定例委員総会		7月号
宮崎県医師会医学会役員会		8月号
宮崎県医師会互助会定時評議員会		8月号
第 152回宮崎県医師会定例代議員会(概要)		8月号
平成 22年度第 6回宮崎県医師会定例総会・第 60回宮崎県医師会互助会総会・第 62回宮崎県医師連盟大会		8月号
女性医師支援担当理事連絡協議会		8月号
都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会		8月号
成人病検診各部会長連絡協議会		9月号
宮崎県医師会介護支援専門員連絡協議会理事会		9月号
都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会		9月号
都道府県医師会産業保健担当理事連絡協議会		9月号
第 1 回各都市医師会長協議会		10月号
各専門分科医会長会		10月号
県糖尿病対策推進会議幹事会		10月号
九州医師会連合会第 312回常任委員会		10月号
第 54回九州ブロック学校保健・学校医大会,平成 22年度九州学校検診協議会(年次大会)		10月号
宮崎県医師会パソコンセキュリティ研修会(宮崎県医師会医療安全対策研修会)		11月号
九州医師会連合会第 313回常任委員会		11月号
九州医師会連合会平成 22年度第 1 回各種協議会		11月号
全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会		11月号
平成 22年度全国医師会勤務医部会連絡協議会	理事 上田 章	11月号

## 【報告(その他)】

## 平成 22年度指導医養成のためのワークショップ

宮崎県臨床研修運営協議会委員・宮崎大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副センター長	小 松 弘 幸	2月号
宮崎県医師会創立 121周年記念医学会		4月号
県医師会介護保険委員会アンケート結果報告		5月号
介護保険担当常任理事	石 川 智 信	
介護保険委員会委員長	牛 谷 義 秀	

第 11回宮崎県医師会医家芸術展		10月号
初期医師臨床研修 / 修了後専門研修説明会 in みやざき		10月号
第 21回新研修医保険診療等説明会並びに祝賀会		10月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会		12月号
地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議		12月号

## 【薬事情報センターだより】

新薬紹介(その 34) イメンドカプセルセット, ジャヌビア錠		1月号
新薬紹介(その 35) サーバリックス, エリザスカプセル外用		2月号
新薬紹介(その 36) ラピアクタ点滴用バイアル, 新型インフルエンザ(H1N1)用輸入ワクチン		3月号
新版インタビューフォーム		4月号
新薬紹介(その 37) プレベナー水性懸濁皮下注, プリディオオン静注		5月号
新薬紹介(その 38) サインバルタカプセル, アロキシ静注		6月号
重篤副作用疾患別対応マニュアル		7月号
新薬紹介(その 39) ビクトーザ皮下注, リリカカプセル		8月号
新薬紹介(その 40) ロゼレム錠, メタクト配合錠 HD・LD		9月号
高血圧治療配合剤		10月号
新薬紹介(その 41) フォルテオ皮下注カート, オレンシア点滴静注用		11月号
新薬紹介(その 42) イーケプラ錠, ترامールカプセル		12月号

## 【宮崎県医師国保組合だより】

国民健康保険法第 116条にかかる届出のお願い		3月号
第 15回「歩こう会」のご案内		3月号
平成 22年度の保険料賦課について(通知)		4月号
歩こう会に参加して	日南市 松田弘彦	5月号
保健事業のご案内		7月号
被保険者証の一斉更新について		9月号
平成 22年度宮崎県医師国民健康保険組合第 103回通常組合会		10月号
インフルエンザ予防接種補助のご案内		11月号

## 【追悼のことば】

井 上 博 水 先生	都城市北諸県郡医師会	3月号
柳 田 惣 吉 先生	日向市東臼杵郡医師会	4月号
西 元 雄一郎 先生	都城市北諸県郡医師会	4月号
池之上 邦 彦 先生	都城市北諸県郡医師会	4月号
島 田 弘 先生	南那珂医師会	4月号
宮 本 忠 明 先生	延岡市医師会	9月号
甲 斐 允 雄 先生	延岡市医師会	10月号
稲 津 舜 介 先生	都城市北諸県郡医師会	12月号

## 【診療メモ】

インフルエンザに漢方治療 最近問題の薬剤耐性菌について～グラム陰性桿菌群を中心に～	小室医院	小 室 康 男	1月号
微小血管狭心症 せん妄について	宮崎市小児診療所 県立宮崎病院精神医療センター	中 谷 圭 吾 今 村 卓 郎 河 野 次 郎	2月号 3月号 4月号
泌尿器科における最近の内視鏡手術 - 単なる低侵襲ではない高精度の手術に - なぜ今, 24時間血圧測定が必要か	宮崎大学医学部外科学講座泌尿器科学分野	賀 本 敏 行	5月号
宮崎大学医学部地域医療学講座助教, 自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 新しい概念「ロコモティブシンドローム」とは		矢 野 裕 一 朗	6月号
形成外科におけるマイクロサージャリーについて	宮崎大学医学部感覚運動医学講座整形外科学分野	帖 佐 悦 男	7月号
ダーモスコピーについて カテーテルアブレーションに関して	宮崎江南病院形成外科 黒川皮膚科クリニック	大 安 剛 裕 黒 川 基 樹	8月号 9月号
ESD : 取る内視鏡治療から確実に治す内視鏡治療へ	名越内科, 宮崎大学医学部第一内科	名 越 敏 郎	10月号
「プライバシー」をめぐる医療現場の混乱 - 「倫理コンサルテーション」の視点から -	市民の森病院消化器科 宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野	宮 田 義 史 板 井 孝 彦 郎	11月号 12月号

## 【私の本】

病院から家に帰る時読む本 ある警察医 20年の足跡	宮 崎 市	牛 谷 義 秀 大 西 雄 二	3月号 7月号
稼ぐ大学病院：教育研究と経営とのほざまで なぜ宮崎に医師はいないのか - 誰も語らない医師不足の本当の理由 -	宮 崎 市	高 崎 眞 弓 清 山 知 憲	9月号 11月号

## 【おしえて！ドクター 健康耳寄り相談室】

CT でわかるタバコの影響 繰り返す口内炎	放射線科医会 皮膚科医会	黒 木 正 臣 東 久 美 子	1月号 1月号
忍び寄る腎臓病 耳閉塞感について	透析医会 耳鼻咽喉科医会	上 園 繁 弘 坪 井 康 浩	1月号 1月号
妊婦と新型インフルエンザ インフルエンザの基礎知識	産婦人科医会 小児科医会	日 高 士 幸 渡 邊 綱 之	2月号 2月号
産科医療費について 成長期の腰椎分離症について	県医師会 整形外科医会	濱 田 政 雄 谷 畠 満	2月号 2月号
(上部・下部消化管)内視鏡検査について 子宮頸癌とワクチン	内科医会 産婦人科医会	大 岐 照 彦 和 田 俊 朗	3月号 3月号
医師不足について のどの痛みについて	県医師会 耳鼻咽喉科医会	古 賀 和 美 春 田 厚	3月号 3月号
おしりの話 ピルについて	外科医会 産婦人科医会	巴 寛 谷 口 二 郎	4月号 4月号
漢方と体質改善 MRI検査を安心して受けていただくために	東洋医会 放射線科医会	川 越 宏 文 小 玉 隆 男	4月号 4月号
緑内障	眼科医会	中 馬 秀 樹	5月号

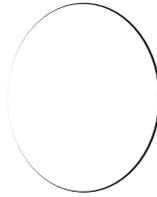
腎臓検診	内科医会	宮 田 純 一	5 月号
地域医療連携～宮崎県の「はにわネット」について	県医師会	荒 木 早 苗	5 月号
こどもに大事な予防接種	小児科医会	三 宅 和 昭	5 月号
増えるうつ病と対応	精神科医会	中 村 究	6 月号
癌より怖い？閉塞性動脈硬化症(ASO)	外科医会	米 澤 勤	6 月号
アルコールはひかえましょう	内科医会	吉 森 建 一	6 月号
【読者の広場】			1～5, 7～9, 12月号
【その他】			
年頭のご挨拶(囲み)	宮崎県医師会		1 月号
年頭のご挨拶(囲み)	宮崎県医師協同組合		1 月号
年頭のご挨拶(囲み)	宮崎県医師国民健康保険組合		1 月号
年頭のご挨拶(囲み)	宮崎県病院厚生年金基金		1 月号
平成 2年叙位・叙勲及び表彰・祝賀受賞会員			1 月号
宮崎大学医学部附属病院肝疾患センターのご紹介	副センター長	永 田 賢 治	2 月号
宮崎県医師会新役員名簿・業務分担			4 月号
各都市医師会役員名簿			4 月号
宮崎大学医学部の医学生および研修医の進路動向			
宮崎大学医学部医学教育改革推進センター准教授・宮崎大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副センター長(兼任)・宮崎県臨床研修運営協議会委員	小 松 弘 幸		6 月号
平成 2年総目次			12月号
【告 知】			
第 15回宮崎県医師会定例代議員会・医師連盟執行委員会開催			4 月号
第 15回宮崎県医師会定例代議員会開催			6 月号
【ご案内】			
宮崎県医師会創立 12周年記念医学会			2 月号
平成 2年度宮崎県医師会第 66回定例総会・第 60回互助会総会・第 62回宮崎県医師連盟大会			6 月号
平成 2年度宮崎県医師会医学会のご案内			8 月号
第 1回宮崎県医師会医家芸術展			8 月号
【お知らせ】			
郡市医師会への送付文書			各 号
宮崎県医師会役員等の選挙のご案内			1 月号
宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ		1～4, 8～10月号	
会員専用ホームページについて			3 月号
宮崎県医師会シンボルマーク決定			4 月号
「宮崎県医師会勤務医住宅ローン」の融資利率の改定について			4 月号
平成 2年度春季県医師テニス大会開催のお知らせ			4 月号
宮崎県医師会・医師国保組合・医師協同組合事務局職員配置			4 月号
第 1回宮崎県医師会医家芸術展作品募集！			5, 6 月号
はまゆう随筆原稿募集			5, 6 月号
諸会費決定について			5 月号
クールビズについて			6～9 月号
平成 2年度宮崎県緩和ケア研修会開催のご案内			6 月号
宮崎県口蹄疫被害義援金について			6, 7 月号
「初期医師臨床研修/修了後専門研修説明会 in みやざき」の開催について			7 月号

平成 22年度春季医師テニス大会中止のお知らせ	7月号
第 11回宮崎県医師会医家芸術展	7月号
第 12回生命を見つめるフォトコンテスト作品募集	7月号
平成 22年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い!	8, 10~ 12月号
女性医師メーリングリストのご案内	9月号
処方せん様式の変更について	9月号
日州医事投稿についてのお知らせ	9, 10月号
『第 28回日本医学会総会 201 東京』事前参加登録のご案内	9, 11月号
「新春随想」原稿募集	10, 11月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	7, 10月号
年未年始の休館について	12月号
宮崎県ドクターズテニス大会(都城)開催のお知らせ	12月号
【宮大医学部学生のページ】	
宮崎大学学園祭 第 5 回清花祭 ~ 一彩合祭 ~ その 3	1月号
第 6 回清花祭	10, 11月号

## 11月のベストセラー

1	続・体脂肪計タニタの社員食堂	タニタ	大和書房
2	もし高校野球の女子マネージャーが ドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社
3	孤舟	渡辺淳一	集英社
4	宇宙は何でできているのか 素粒子物理学で解く宇宙の謎	村山 斉	幻冬舎
5	老いの才覚	曾野綾子	ベストセラーズ
6	2011年本当の危機が始まる! 国債バブルと商品高がもたらす「恐怖のシナリオ」	朝倉 慶	ダイヤモンド社
7	体脂肪計タニタの社員食堂	タニタ	大和書房
8	国家の命運	薮中 三十二	新潮社
9	ハーバード白熱教室講義録 + 東大特別授業(上)(下)	マイケル・サンデル著 小林正弥・杉田晶子訳	早川書房
10	マラソン 2 年生	たかぎなおこ	メディアファクトリー

宮脇書店本店調べ  
提供：宮崎店(宮崎市青葉町)  
☎ (0985) 23-7077



今年も残すところあとひと月になりました。来年の手帳やカレンダーを準備すると、特に目標を立てた訳でもないのに継続して実践していることがあると気付きました。ひとつは日記。1日も欠かさずとはいきませんが、その日の気持ちや記憶しておきたい出来事を書き綴って8年ほど経っていました。何でもパソコンで記録して付け足したら保存、書き直したら上書きするのと違って、ボールペンで文字を書くときも余り

も同時に記録されて、後で振り返った時に日記を書いている自分の様子が浮かび、懐かしくなりました。もう一つ継続していたことは、いわゆるダイエット。きっかけは何だったのか覚えていませんが体重と体脂肪を記録するためのカレンダーを毎年のように体重計の前に貼って、そこにきちんとボールペンも用意していました。目標も設定せず、ただ日常的に体重計にのり、測ったら書き込む。1年経ったら捨ててしまうのですが、ダイエットを意識していることが唯一垣間見えるのは、年間の最大体重と最少体重だけは翌年分に記録をしていたことです。もしかしたら去年と変わらないことを無意識のうちに目標にしていたのかもしれない。ゴールもなく、ご褒美があるわけでもないのに、何年も継続できることがあるんだと気付いたらちょっぴりレベルアップした気分になりました。「継続は力なり」を前向きに捉えて、来年も地味に継続していきたいと思えます。(彦坂)

先日、GID(性同一性障害)のmeetingに出席する機会がありました。GIDとは「同性愛」とも「異性装」とも「おかま」とも違います。苦しんでいる患者さん達に直に向き合い、ホルモン療法から手術療法(SRS)まで様々な医療がとりにいられています。実情として東南アジアを中心に行われているSRSも、少しずつ国内でも増えてきたようです。最近ではMTF(male to female)やFTM(F to M)だけでなく、男性でも女性でもないいわば中性になるとうとするFTXやMTXが増えてきたとの話でした。私の所ではMTFとFTMのホルモン剤の投与を行っていますが、社会として受け入れなければならない医療だと痛感しました。(和田)

最近、マイブームのひとつに「焼酎」が加わりました。たまたま立ち寄った焼酎Barで「芋、米、麦、蕎麦、etcでお勧めを出して」と言ったのが始まりです。焼酎はなんとなく癖が強く飲みづらいと考えていた私は、この「癖」(原料による個性)こそが焼酎の真骨頂だということを知りました。以来、新たな出会いを求め(焼酎の話です、念のため)そのお店に通うようになりました。ちなみに蒸留酒である焼酎は、基本的に糖質ゼロだそうです。巷では「糖質ゼロ」がブームのようですが、実は私も乗せられていたりします...(尾田)

先日、生まれて初めて内臓が締めつけられるような痛みを襲われました。原因は尿路結石。まさに身の置き所がない激痛に七転八倒。幸いESWLを受け、快方に向かっています。今回2つのことを学習しました。1つは尿路結石の経験者が周囲に意外に多いこと。男性の場合、生涯罹患率は1人に1人となるようです(尿路結石ガイドライン2004)。もう一つ、男が痛がる姿に対し、女性は冷たい...。女性は日頃から痛みと闘っているからでしょうか...?! 予防はバランスのとれた食事と飲水が重要。皆さんもお気をつけください。(坪井)

1月号のあとがきでご紹介した『平穩死』のすすめの著者の石飛幸三氏が、11月3日宮崎に来られ講演・シンポジウムをされました。ご自身も講演前日に後

期高齢者(75歳)にられたと話されました。現在の高齢者の医療・介護の現場を長く見てこれ、どうにかしなくてはいけないという強い思いが伝わりました。会場には宮崎で実際に介護に当たっている様々な職種の方々や患者さん家族がたくさん来られ、熱い討議で盛り上がりました。(田坂)

一時は口蹄疫で開催が危ぶまれた学園祭(清花祭)でしたが、多くの方々に支えられ、無事に開催することが出来ました。協力してくださった皆様には本当に感謝しております。今年は幹部学年ということで、学祭長を中心に、幹部全員で準備・運営を行いました。イベントを自分達の手で作りに上げる大変さや仲間と協力することの大切さを、大人になってから、また改めて知ることが出来ました。祭りの後は何やら淋しいですね。とりあえず打ち上げでは悔いの無いよう、酔いつぶれようと考えています。(川崎)

1月の20、21日には毎年恒例の宮崎大学の学祭が行われました。ただ、今年の学祭では昨年に起きた学祭期間中のインフルエンザの大流行に学んでき、学祭期間中、マスクをつけた医学部生をいたるところで目にしました。去年のインフルエンザの猛威を思い返し、今年は予防接種をせねばと焦っているのは、私以外にも大勢おられるのではないのでしょうか。(前田)

日本は殆ど資源のない国と思っていたが、実は世界有数の資源大国らしい。陸ではなく海の話だ。まさに宝の山で、豊富な海底資源や海洋資源・水産資源があるらしい。排他的経済水域が設定されたことで国連や経済産業省等の調査によると、海底には天然ガス、海底熱水鉱床やコバルト・リッチ・クラストなどのレアメタル。また次世代エネルギーとして期待できるメタンハイドレートなどエネルギー資源数百年分も埋蔵されているそうだ。海水にはウランが存在し、その捕集技術は我が国の最先端技術らしい。石油が枯渇した折には凄惨な資源大国だが、何にもできない政治家と国の為は何もしない官僚で日本がその頃どうなっているか心配です。(済陽)

## 今 月 の ト ピ ッ ク ス

**日州医談** 消防法改正に伴う傷病者の搬送及び受け入れの実施基準について

昨年 10月に施行された消防法の改正により各都道府県に協議会を設置し、表記の実施基準を策定・公表することが義務づけられました。医療機関リスト作成に到らんとする宮崎での協議会の現況について、古賀常任理事が解説しておられます。

4 ページ

**メディアの目** 政府与党の医療改革はいずこ？

民主党政権の掲げた「医療改革」は果たして実現できるのだろうか？現政権に対するいらだちを読売新聞宮崎支局長の千田伸二さんがコメントしておられます。

16ページ

**診療メモ** 「プライバシー」をめぐる医療現場の混乱

- 「倫理コンサルテーション」の視点から -

2002年から宮崎で「倫理コンサルテーション」を続けられている板井孝彦郎先生が、病院に対する患者家族からの電話問い合わせと、個人情報保護法に係わる注意点・問題点について、明解に解説されています。

52ページ

日 州 医 事 第 736号 (平成 22年 12月号) (毎月 1 回 10日発行)

発行人 社団法人 宮 崎 県 医 師 会

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地 0985-22-5111(代)・FAX 27-6550

<http://www.miyazakimed.or.jp/> E-mail: office@miyazakimed.or.jp

代表者 稲 倉 正 孝

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 和田 俊朗・副委員長 尾田 朋樹

委 員 下園 孝司, 上野 満, 黒川 基樹, 藪内 悠貴, 湯浅美紗子

坪井 康浩, 田坂 裕保, 彦坂ともみ, 川崎真由美, 前田 雄洋

担当副会長 富田 雄二・担当理事 荒木 早苗, 済陽 英道

事 務 局 学術広報課 喜入 美香, 杉田 秀博

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円 (但し, 県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)